

報告事項

「令和８年度全国学力・学習状況調査」の
結果について

令和８年８月２４日（月）

富山市教育委員会

目 次

I	本調査の目的	1
II	実施状況	1
III	教科に関する結果の概況	
1	教科区分別平均正答率（％）・平均 IRT スコア	1
2	結果の概要	1
IV	本調査結果の考察	
1	教科に関する調査の結果から	
(1)	小学校国語	2
(2)	小学校算数	6
(3)	中学校国語	10
(4)	中学校数学	14
(5)	中学校英語（3 技能）	18
2	児童生徒質問調査の結果から	22
3	学校質問調査の結果から	24
V	今後の取り組み	
1	調査結果の取り扱い	26
2	教科に関する調査と児童生徒質問調査及び 学校質問調査の関連	26
3	授業改善に向けた指導の重点	30

「令和8年度全国学力・学習状況調査」の結果概況について

富山市教育委員会

I 本調査の目的

- 1 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 2 市教育委員会が、全国的な状況との関係において、本市の教育の結果を把握し、改善を図る。
- 3 各学校が、自校の児童生徒の学力や学習状況を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

II 実施状況

- 1 実施期日 冊子を用いた筆記方式 令和8年4月23日(木)
ICT 端末(MEXCBT)を用いたオンライン方式
(小学校「児童質問調査」は令和8年4月24日(金)～5月8日(金)、中学校英語「読むこと・書くこと」「聞くこと」「生徒質問調査」は令和8年4月20日(月)～23日(木)、中学校英語「話すこと」は令和8年4月24日(金)～5月29日(金)のうち、あらかじめ指定された1日)
- 2 調査内容 教科に関する調査 国語、算数・数学、中学校のみ英語
質問調査 児童生徒、学校
- 3 実施学校数、実施児童生徒数

小学校6年(以下、義務教育学校6年を含む。)		中学校3年(以下、義務教育学校9年を含む。)	
実施学校数	実施児童数	実施学校数	実施生徒数
59校1分校	2,914人	25校1分校	2,900人

III 教科に関する結果の概況

1 教科区分別平均正答率(%)・平均IRTスコア

	平均正答率				平均IRTスコア
	小学校6年		中学校3年		英語 「読むこと・書くこと」「聞くこと」
	国語	算数	国語	数学	
富山市	63	57	64	58	495～505未満
富山県	62	56	64	59	495～505未満
全国	61	56	64	57	499

※ 中学校英語…ICT 端末を用いたオンライン方式 CBT で実施しており、その調査結果については IRT(項目反応理論)に基づき、500 を基準に算出した IRT スコアで表示

2 結果の概要

- ・小学校について、平均正答率を全国と比較すると、国語は2ポイント、算数は1ポイント上回っている。
- ・中学校について、平均正答率を全国と比較すると、国語は同等であり、数学は1ポイント上回っている。平均 IRT スコアを全国と比較すると、英語3技能は同等である。
- ・平均正答率を県と比較すると、小学校では国語、算数はともに1ポイント上回っている。中学校では国語は同等であり、数学は1ポイント下回っている。中学校英語の平均 IRT スコアは同等である。

3 その他

中学校英語「話すこと」の結果については、令和8年9月以降に提供されるため、改めて分析を行い、公表する予定である。

IV 本調査結果の考察

1 教科に関する調査の結果から

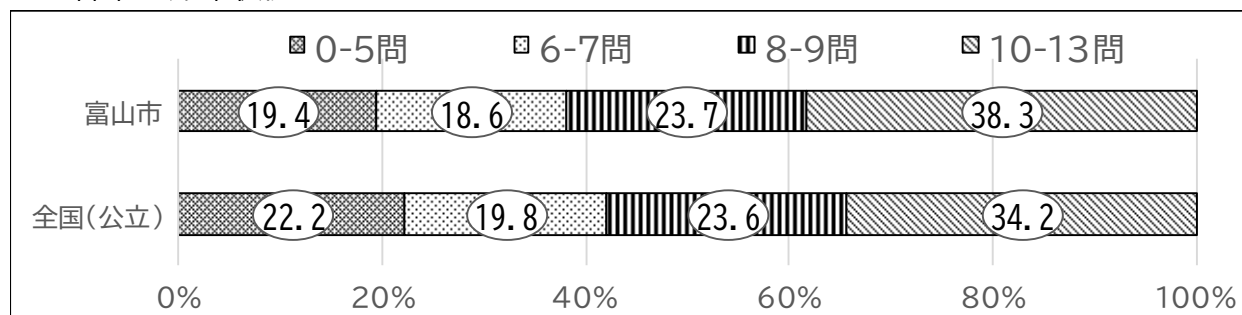
(1) 小学校国語

<集計結果>

平均正答率(%)	富山市	富山県(公立)	全国(公立)
	63	62	61

・以下の集計値は、4月23日に実施した調査の結果を集計した値である。

<正答率の分布状況>



<「学習指導要領の内容」、「評価の観点」及び「問題形式」からみる状況>

凡例 ○ 全国を上回るもしくは同等の領域等・観点
▲ 全国を下回る領域・観点

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				富山市		全国(公立)
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	○	68.2	66.8
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	○	55.6	52.3
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	○	69.6	65.8
		B 書くこと	2	○	51.8	45.7
		C 読むこと	2	▲	61.8	65.9
評価の観点		知識・技能	6	○	64.0	62.0
		思考・判断・表現	7	○	62.3	60.1
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	9	○	64.9	61.9
		短答式	2	○	63.0	62.6
		記述式	2	○	55.0	54.9

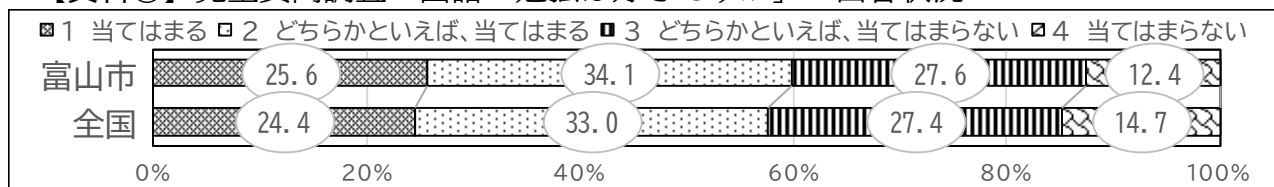
※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<結果の概要> (凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

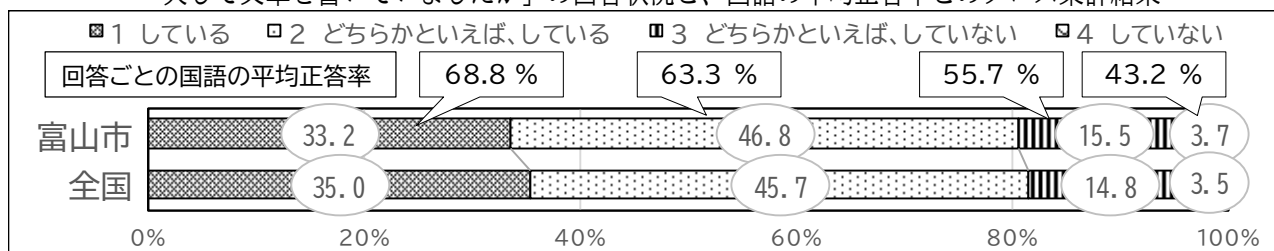
- 全体の平均正答率は、全国より2ポイント上回っている。
- 評価の観点ごとの平均正答率をみると、「知識・技能」では、全国より2ポイント上回っている。また、「思考・判断・表現」では、全国より2.2ポイント上回っている。
- 内容でみると、領域「読むこと」では、全国より4.1ポイント下回っている。

<考察及び今後の指導について>

【資料①】児童質問調査「国語の勉強は好きですか」の回答状況



【資料②】児童質問調査「国語の授業で、文章などを引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていましたか」の回答状況と、国語の平均正答率とのクロス集計結果



- ① 内容「A 話すこと・聞くこと」の「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題」では、正答率は全国より2.8ポイント以上上回っている。分かりやすく伝えるためには、補足の説明や注目点を強調するなど、工夫することが身についている。(問題1二(1)、(2))
- ② 内容「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」の「比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができるかどうかをみる問題」では、正答率は全国より3.8ポイント上回っている。話したり聞いたりする場面においても、比喩や倒置などの表現の工夫に気付く活動を大切にしたい。(問題1二(3))
- ③ ① 内容「B 書くこと」では、「筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる問題」において、正答率は62.6%で、全国より4.7ポイント上回っている。文章の組み立てを考え、つながりや配列を意識して書く力が身についている。一方、「引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題」では、全国より7.5ポイント上回ったものの、正答率は41.0%である。【資料②】との関連から、目的に合わせて必要な語句や文を抜き出すことに加え、引用部分と自分の考えとの関係を明確にして書く経験を積み重ねたい。(問題2一、四)
- ② 内容「C 読むこと」では、単元で大切にしたい学習過程(⑦筆者の考えを理解するためにメモに整理する、⑧同じ文章を読んだ友達と意見交流する、⑨文章を読んで考えたことを自分なりにまとめる)に沿って問題が構成されていた。その中で、⑨に当たる問題では、正答率は69.0%で、全国を7.4ポイント下回っていると同時に、無解答率は20.7%で、全国より5.1ポイント高くなっている。自分の考えをまとめ、表現する力を伸ばすためには、国語科はもとより、各教科等においても「〇〇から、～と考えた」と書いて振り返るなど、日ごろから自分の考えをまとめ、表現する機会を継続して取り入れていきたい。また、児童質問(国2)「解答時間は十分でしたか」の質問に対して、肯定的な回答をした児童は53.2%で、全国より15.4ポイント下回っている。解答する際には、設問のキーワードからその意図を速く正確に読み取ることが重要であることから、日ごろの学習活動において、文章を読む際には、目的に応じて必要な情報を見つけていくことを大切に進める。(問題3三(2))P4、5 参照

問題ごとの学習活動のポイント(例)

- ① 「話すこと・聞くこと」の学習と総合的な学習の時間の活動とを関連させ、例えば、地域の伝統行事等に携わる人へのインタビューを通して感じたよさや価値、現況における課題等について、ポスターセッションを行い表現する場を設定することで、自分の提案について説明したり資料の注目してほしい点を強調して話したりする力を育むことにつながる。
- ① 文章全体の構成を考える際には、一人1台端末を活用し、メモの書き込みや色分けによって、事実と感想、意見とを区別することも有効である。また、端末を活用することで、メモを並べ替えて文章の展開を考えたり、他者参照して書き表し方をさらに工夫したりすることも期待できる。
- ② 教材文や新聞、インターネットニュース等を活用し、説明や解説等の文章を読み、分かったことや考えたことを書く活動を積み重ねる。自分の経験と似ている点を探したり、2つの文章を比較して相違点を挙げたりして書く工夫や、感じた疑問を友達と話し合う活動が考えられる。

【話し合いの様子の一部】



私は「苦手」と「嫌い」という題名の文章が心に残ったんだ。この文章の中の（——部アを示しながら）ここの部分が特に考えさせられたんだ。



どんなことを考えたの。



この部分のあとにいろいろな事例が出てくるでしょ。これらの事例を読んだら、自分にも同じようなことがあると、はっとしたんだ。例えば、自分に置きかえると、ということがあるよ。



なるほど。文章と自分の経験を結び付けて考えたんだね。



そうなんだ。この文章を読んで、これまでの自分にはない考えだったけれども、なるほどと思ったよ。小川さんは、どんなことを考えたの。



ぼくは、この文章を読んで、筆者が書いていることと少しちがうことを考えたんだ。「苦手だからどうしても嫌い」ということもあるだろうし、「得意だけれど嫌い」ということもあるんじゃないかなと思うんだけど、どう思う。

（話し合いが続く）

(●問題3三(2))
正答率 69.0%
無解答率 20.7%)

までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

1 持久走のタイムは速いけれど、苦しいのは嫌い

2 スピーチが苦手だし、好きになれそうにもない

3 上手ではないけれど、絵をかくのは楽しい

4 歌うことが大好きで、人前で歌うのも気持ちがいい

(27) 林さんは、小川さんと話し合ったことをもとに、改めて「文章」を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめることにしました。あなたなら、「文章」を読んで考えたことをどのようににまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。

（条件）

- 「文章」を読んで、考えたことを書くこと。
- 「文章」から言葉や文を取り上げて書くこと。
- あなたの経験を書くこと。

※左の枠は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

[illegible]

林さんの手紙では、自分の心に残った文章について考えたことをまとめることにしました。林さんは、「苦手」と「嫌い」という題名の文章を選んで読んでいます。次は、林さんが読んだ「文章」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【文章】※ 部①、②、③、アの内容は、あとの問いで取り上げられます。

(辻村深月 「苦手」と「嫌い」による。)

(辻村深月 「苦手」と「嫌い」による。)

(辻村深月 「苦手」と「嫌い」による。)

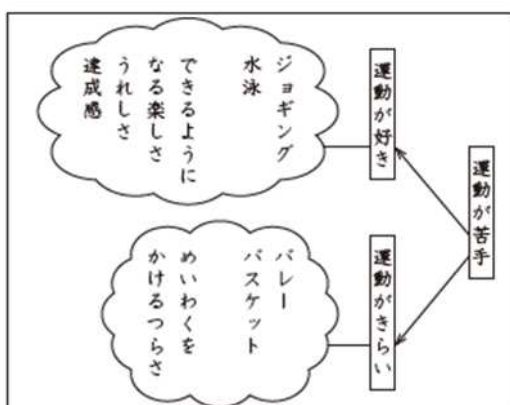
※ 「シチュエーション」……じょうきよう。立場・場面。

一 林さんは、「文章」を読んで、文章の書き方に特徴があることに気づきました。「文章」の特徴として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 疑問や調べたことを、問いと答えの段落に分けて書いています。
- 2 筆者の生涯を、生まれたときから時間的な順序で書いています。
- 3 登場人物同士の関係を、場面の移り変わりと結び付けて書いています。
- 4 筆者の経験や心の動きを、筆者なりのものの見方や感じ方で書いています。

二 林さんは、「文章」を読んで、筆者の考えを理解するために、部①、②、③について「林さんのメモ」のように整理しました。林さんはどのように整理しましたか。その説明として最も適切なものを、下の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【林さんのメモ】



- 1 「苦手」を「好き」と「嫌い」の場合に矢印で分けて、筆者の経験したことを結び付けて整理している。
- 2 「苦手」を「好き」と「嫌い」の場合に矢印で分けて、自分の経験したことを結び付けて整理している。
- 3 「苦手」、「好き」、「嫌い」の順に矢印でつなげて、筆者の経験したことを結び付けて整理している。
- 4 「苦手」、「好き」、「嫌い」の順に矢印でつなげて、自分の経験したことを結び付けて整理している。

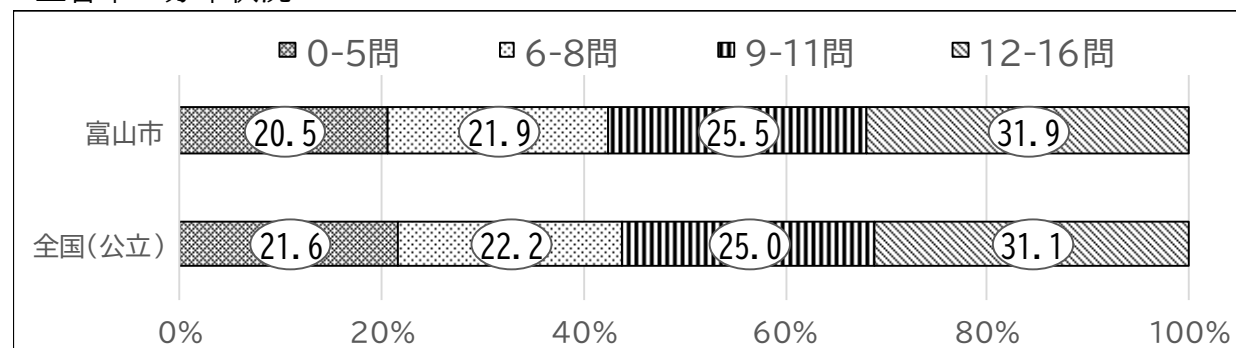
(2) 小学校算数

<集計結果>

平均正答率(%)	富山市	富山県(公立)	全国(公立)
	57	56	56

・以下の集計値は、4月23日に実施した調査の結果を集計した値である。

<正答率の分布状況>



<「学習指導要領の内容」、「評価の観点」及び「問題形式」からみる状況>

凡例 ○ 全国を上回るもしくは同等の領域等・観点
▲ 全国を下回る領域・観点

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			富山市	全国(公立)
学習指導要領の 領域	A 数と計算	8	○ 62.3	61.1
	B 図形	4	▲ 55.0	55.3
	C 測定	1	○ 80.5	78.1
	C 変化と関係	3	○ 42.3	41.1
	D データの活用	4	○ 49.8	48.6
評価の観点	知識・技能	12	○ 60.2	60.1
	思考・判断・表現	4	○ 46.5	45.4
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	5	○ 56.2	56.0
	短答式	8	○ 59.9	59.7
	記述式	3	○ 49.5	48.5

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<結果の概要> (凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

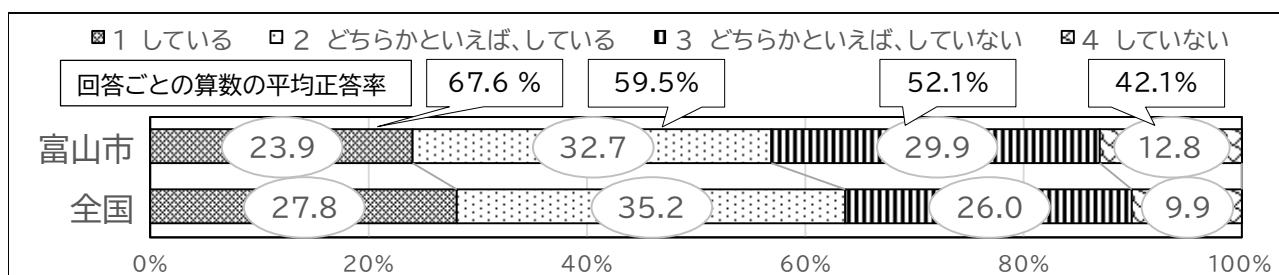
- 全体の平均正答率は、全国及び県より1ポイント上回っている。
- 問題形式ごとの平均正答率では、全国より「選択式」で0.2ポイント、「短答式」で0.2ポイント、「記述式」で1ポイント上回っている。
- 「B 図形」の領域の平均正答率では、全国より0.3ポイント下回っている。

<考察及び今後の指導について>

【資料①】児童質問調査「算数の勉強は好きですか」の回答状況



【資料②】児童質問調査「授業では、算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか」の回答状況と、算数の平均正答率とのクロス集計結果



(○は平均正答率の高い問題、●は平均正答率が低い問題から特徴的なものを選んで記述した)

- ① 領域「C測定」の「示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができるかどうかをみる問題」では、正答率は80.5%で全領域の中で最も高く、全国を2.4ポイント上回っている。示された情報を基に時間の数量関係をとらえ、的確に処理する力が身についている。

(問題4(2))P8 参照

- ② 領域「B図形」の「日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さをとらえ、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題」では、正答率は49.8%で、全国を4.6ポイント上回っている。図形の構成要素と示された条件を基に、調べたい数量の求め方を説明する力が育っている。

(問題1(4))

- ① 領域「D データの活用」の「二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる問題」では、正答率は19.6%である。全国より1.7ポイント上回っているものの、目的に応じてグラフから必要な数値を読み取るなど、情報を抽出・整理する力が十分とは言えない。単なる数値の読み取りにとどめることなく、身近なアンケート結果や他教科等におけるデータを分類整理し、表を作る活動を取り入れるなどの経験を積むことが大切である。

(問題4(3))P8、9 参照

- ② 領域「B図形」の「立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる問題」では、正答率は64.4%であり、全国を8.3ポイント下回り、正答率が低い。図形の面積や体積を求める際、公式に当てはめるだけでなく、面積や体積とは何なのかといった概念的な理解につなげていく必要がある。

(問題1(1))

学習活動のポイント(例)

- ① 表やグラフを扱い、データの特徴や傾向を読み取ったり、考察したりする際には、「集計したデータは正しいか」「別の観点から見たらどうか」等、様々な見方で子ども同士が分析結果を比較し、対話する場面を設けたい。より多様な見方・考え方でデータをとらえることができるように、一人1台端末を活用し、一人一人の考えを全体に共有し他者参照したうえで対話できるとさらによい。また、理科の実験データや総合的な学習の時間における調査活動等、他教科等でデータを扱う場面と関連させた指導も有効であると考え。
- ② 図形の面積や体積を求める学習においては、公式に数値を当てはめるだけでなく、共通単位となる正方形や立方体がいかにあるのかを実際に数える体験を取り入れるなどして、「広さ」や「かさ」の量を数でとらえ、実感をともなって理解できるようにするとよい。また、面積や体積を計算で求める際には、なぜ、その式や答えになったのかを、児童同士が互いに説明し合う活動を取り入れることにより、【資料②】にも示されるように、全体的な学力の向上につながるものと考えられる。

6年生のさくらさんたちは、1年生と仲良くなるために交流会を計画しています。交流会では6年生と1年生がいっしょに、ボール遊び、おにごっこ、昔遊びをします。

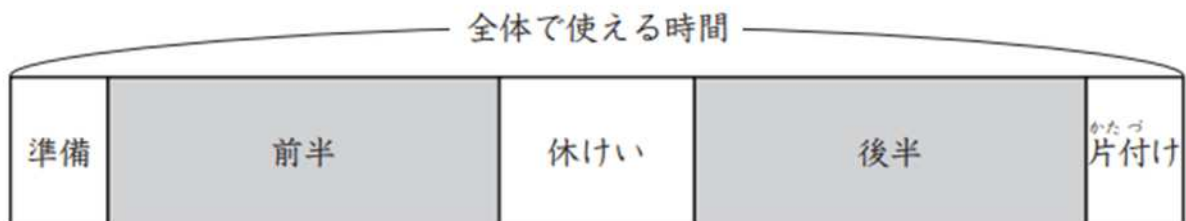
- (2) さくらさんたちは、昔遊びを^{たんと}当することになり、下のように【昔遊びの計画】を立てました。

【昔遊びの計画】

遊び方について

- ・ 前半と後半に、あやとり、または、かるたで遊ぶ。
- ・ 前半と後半が、同じ遊びでもちがう遊びでもよい。

時間の使い方について



- ・ 全体で使える時間は 60 分間。
- ・ 準備は最初の 5 分間。
- ・ 前半と後半の間の休けいは 10 分間。
- ・ 片付けは最後の 5 分間。
- ・ 前半と後半の時間は同じ。

【昔遊びの計画】を見ると、「前半」の時間は、何分間ですか。

答えを書きましょう。

(○問題4(2) 正答率 80.5% 無解答率 4.3%)

- (3) さくらさんたちは、前半と後半のあやとりやかるたに参加する 1 年生の人数を下の表にまとめました。

前半と後半の遊びごとの人数 (人)				
		後半		合計
		あやとり	かるた	
前半	あやとり	4	9	13
	かるた	8	7	15
合計		12	16	28

さくらさんたちは、あやとりに参加する 1 年生にひもをわたします。

わたすひもの本数を知るために、表からあやとりに参加する人数を調べると、次のことがわかります。

前半にあやとりに参加する人数は 人です。

前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数は 人です。

上のア、イに入る数を、それぞれ書きましょう。

(●問題4(3) 正答率 19.6% 無解答率 4.5%)

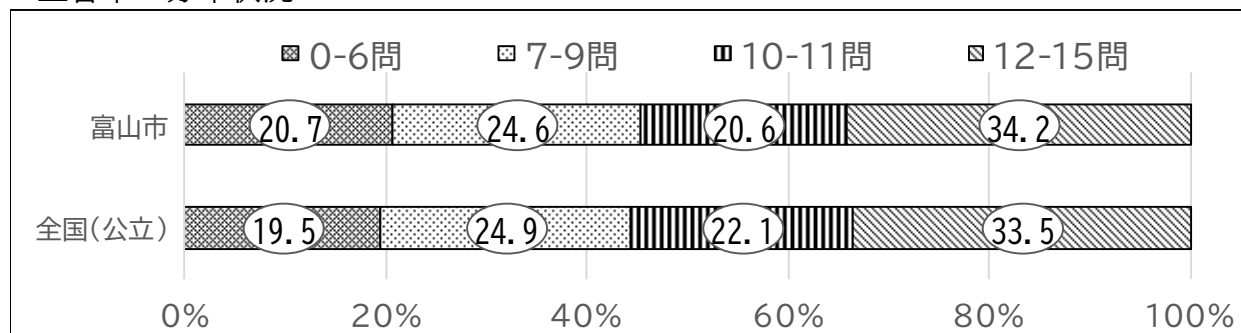
(3) 中学校国語

<集計結果>

平均正答率(%)	富山市	富山県(公立)	全国(公立)
	64	64	64

・以下の集計値は、4月23日に実施した調査の結果を集計した値である。

<正答率の分布状況>



<「学習指導要領の内容」、「評価の観点」及び「問題形式」からみる状況>

凡例 ○ 全国を上回るもしくは同等の領域等・観点
▲ 全国を下回る領域・観点

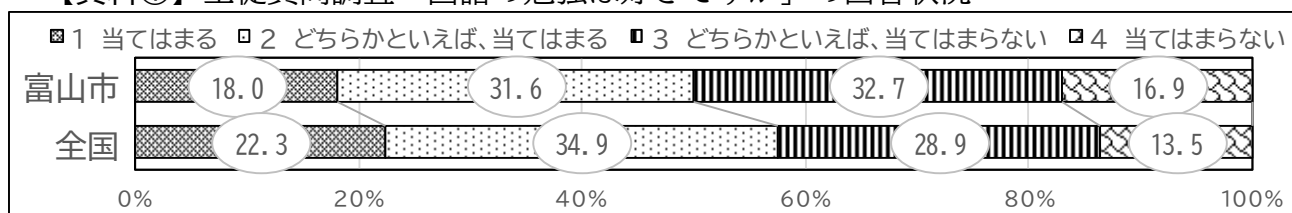
分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				富山市		全国(公立)
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	▲	62.2	63.0
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	○	71.4	70.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	○	64.1	63.9
		B 書くこと	3	▲	67.0	67.4
		C 読むこと	3	○	59.7	59.7
評価の観点		知識・技能	6	▲	63.7	64.2
		思考・判断・表現	9	▲	63.6	63.7
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	9	▲	72.5	72.7
		短答式	3	▲	54.8	55.8
		記述式	3	○	46.0	45.5

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

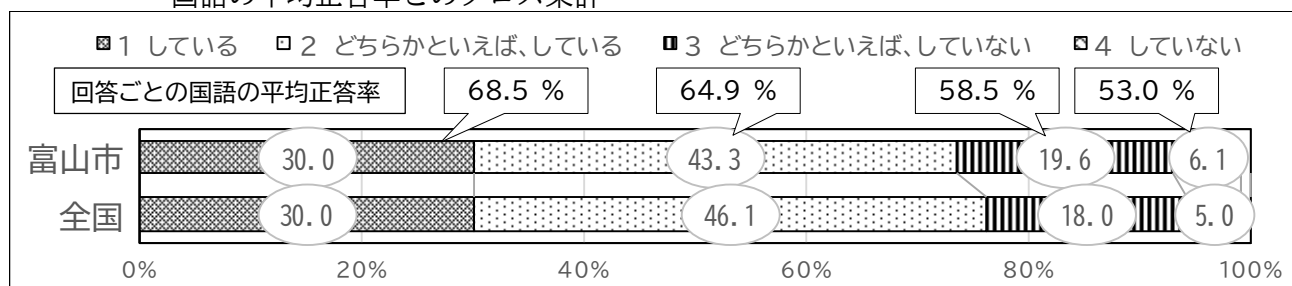
<結果の概要> (凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

- 全体の平均正答率は、全国と同等である。
- 領域「思考力、判断力、表現力等」では、「A 話すこと・聞くこと」において、全国より0.2ポイント上回っている。
- 問題形式のうち、「記述式」の問題の平均正答率は、全国より0.5ポイント上回っている。
- 問題形式のうち、「選択式」の問題の平均正答率は、全国より0.2ポイント下回っている。「短答式」の問題の平均正答率は、全国より1.0ポイント下回っている。

【資料①】 生徒質問調査「国語の勉強は好きですか」の回答状況



【資料②】 生徒質問調査「文章を書いた後に、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしていましたか」の回答と、国語の平均正答率とのクロス集計



(○は平均正答率の高い問題、●は平均正答率の低い問題から特徴的なものを選んで記述した)

① 内容「A話すこと・聞くこと」の「互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる問題」では、正答率が55.1%で、全国より2.4ポイント上回っている。互いの立場や考えを尊重しながら、共通点や相違点、新たな提案などを踏まえた話し合いにおいて、どのような意見を述べるか、自分の考えをまとめる力と書く力がともにについていると考えられる。(問題2四)

① 内容「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」の「語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる問題」では、正答率は32.3%で、全国より2.9ポイント下回っており、無解答率は21.7%である。語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈における意味を具体的かつ個別的にとらえて、その語句が文章の中で果たしている役割を考えることが重要であり、事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して、話や文章の中で使う経験を積み重ねたい。(問題4二)P13 参照

② 内容「C読むこと」の「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる問題」では、正答率は38.4%で、全国より0.5ポイント下回っており、無解答率は22.6%である。文章を読んで自分の考えを確かなものにするためには、文章に表されたものの見方や考え方をとらえ、自分の知識や体験と関連づけるなどして意見をもつことを意図した活動に十分に取り組む必要がある。(問題4四)P12 参照

問題ごとの学習活動のポイント(例)

① 語感を磨き語彙を豊かにするために、小さな手帳を携帯し、書かれた時代やジャンルを問わず様々な文章に触れるようにしたり、日常生活でいろいろな言葉を見聞きしたりする中で、新たに知った言葉を書き留めておく活動が考えられる。さらに、理解した語句を活用したくなるような表現の場として、文章や詩、俳句等を書く場を設定し、自分の表現のよい点や改善点を見いだしたり、お互いの用いた語句・表現の工夫とその効果などについて話し合ったりする場の設定により、【資料②】にみられる、全体的な学力向上にもつながると考える。

② 例えば、古典「枕草子」において筆者が「をかし」ととらえているものと、生徒自身が「すてき」や「おもしろい」と感じている身の回りのものとを比べて、共通点や新たな発見についてまとめる活動が考えられる。同様に、ニュースやSNS記事、新聞の社説などから、筆者の見方・考え方と自身の考えを比べる活動を積み重ねるとよい。また、一人1台端末を活用し、それぞれがまとめた意見を他者参照することで、学びの広がりが期待できる。

四 林さんは、本文を読んで理解したことをより深めるために、〈具体的な場面〉を思い浮かべながら、二種類の例文を書いてみました。あなたは、〈例文1〉と〈例文2〉を比べて、擬態語にはどのような効果があると考えますか。あとの条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

〈具体的な場面〉



〈例文1〉（擬態語を使っていない例文）

「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒は言った。

〈例文2〉（擬態語を使った例文）

「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒はきつぱりと言った。

条件1 〈例文2〉の擬態語「きつぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くこと。

条件2 条件1で書いたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書くこと。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

--

（●問題4四 正答率 38.4% 無解答率 22.6%）

4 林さんは、擬音語（擬声語）・擬態語に興味をもち、次の文章を読んでいます。これを読んで、あとの問いに答えなさい。①から

⑦は、段落の番号を表します。

（中田智子「会話の表情を表わす擬音語・擬態語」による。）

（注） 物腰＝人に接するときの態度。

二 林さんは、――線部「ほうふつとさせる」を正確に理解するために、「ほうふつ」を国語辞典で調べました。次の【国語辞典に載っていた意味】を読むと、⑥段落に「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現がいくつかあることに気が付きました。【国語辞典に載っていた意味】を参考にして、それらの表現のうちどれか一つを⑥段落の中から抜き出さない。

【国語辞典に載っていた意味】

ほうふつ 【彷彿】 ①はつきりと脳裏に思い浮かぶこと。よく似ていること。②おぼろげなさま。はつきりしないさま。

（●問題4二 正答率 32.3% 無解答率 21.7%）

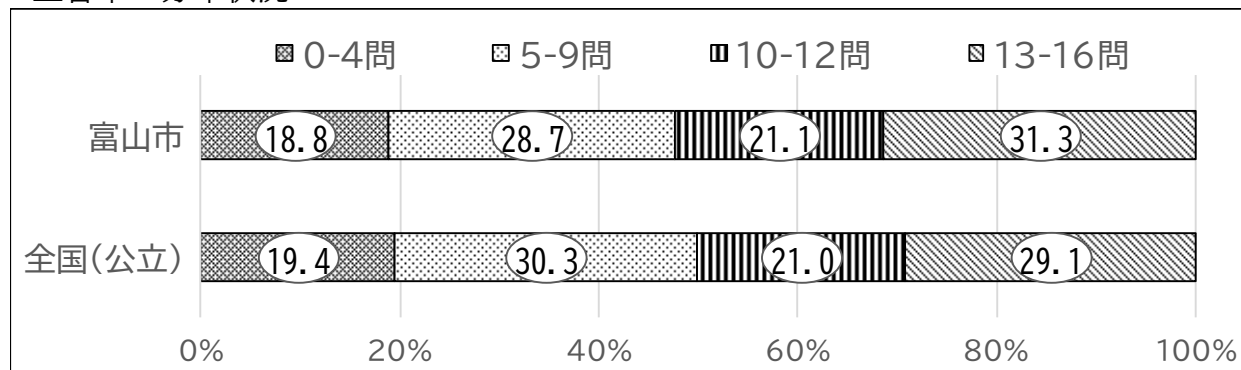
(5) 中学校数学

<集計結果>

平均正答率(%)	富山市	富山県(公立)	全国(公立)
	58	59	57

・以下の集計値は、4月23日に実施した調査の結果を集計した値である。

<正答率の分布状況>



<「学習指導要領の内容」、「評価の観点」及び「問題形式」からみる状況>

凡例 ○ 全国を上回るもしくは同等の領域等・観点
▲ 全国を下回る領域・観点

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			富山市	全国(公立)
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	○ 68.0	67.8
	B 図形	4	○ 50.9	48.7
	C 関数	3	○ 55.8	54.8
	D データの活用	4	○ 55.5	53.5
評価の観点	知識・技能	12	○ 64.7	63.0
	思考・判断・表現	4	○ 39.3	39.1
	主体的に学習に取り組む態度	0	▲	▲
問題形式	選択式	3	○ 61.0	59.3
	短答式	9	○ 65.9	64.2
	記述式	4	○ 39.3	39.1

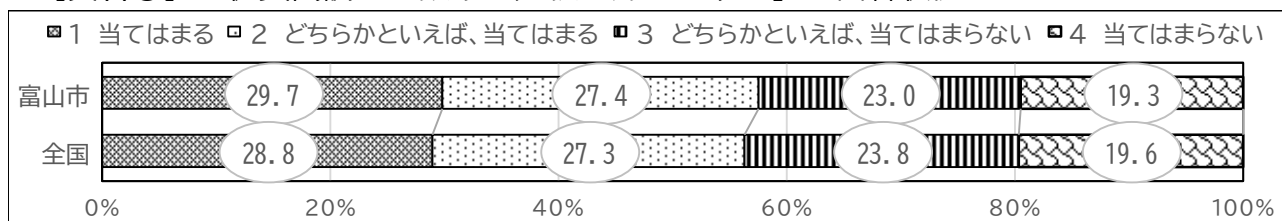
※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<結果の概要> (凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

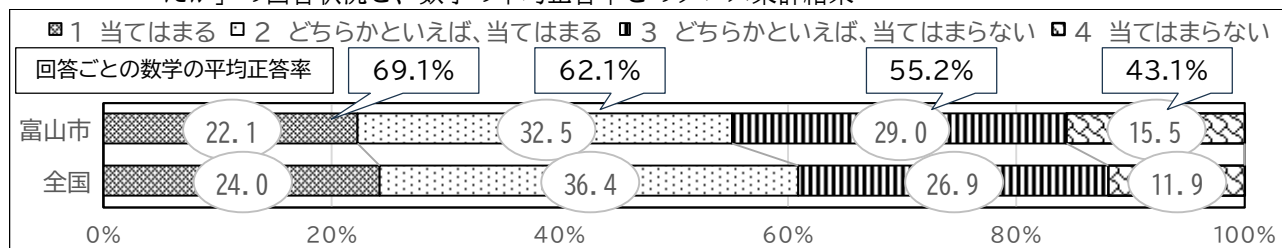
- 領域ごとの平均正答率は、全ての領域で全国より上回っている。
- 領域「B 図形」の平均正答率は、全国より2.2ポイント上回っている。
- 全体の平均正答率は、全国より1ポイント上回ったものの、県より1ポイント下回っている。
- 問題形式のうち、「記述式」の問題(4問いずれも「思考・判断・表現」の観点)の平均正答率は、全国より上回っているものの、0.2ポイントにとどまっている。

<考察及び今後の指導について>

【資料①】生徒質問調査「数学の勉強は好きですか」の回答状況



【資料②】生徒質問調査「数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか」の回答状況と、数学の平均正答率とのクロス集計結果



(○は平均正答率の高い問題、●は平均正答率が低い問題から特徴的なものを選んで記述した)

- ① 領域「A数と式」の「具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができるかどうかをみる問題」では、正答率は86.9%で、全国より1.2ポイント上回っており、基礎的・基本的な知識・技能が身につけている。(問題1)
- ② 領域「Dデータの活用」の「箱ひげ図と四分位数の対応について理解しているかどうかをみる問題」では、正答率は77.3%で、全国より1.5ポイント上回っており、箱ひげ図からデータの分布を適切に読み取る力が定着している。(問題9(2))
- ① 領域「Dデータの活用」の「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる問題」では、正答率は33.1%であり、無解答率も33.0%となっている。【資料②】から、授業で自分の考えを説明する活動をよく行っている生徒と行っていない生徒では、全体の正答率に26.0ポイントの差がみられる。日常的に、データの傾向について判断し、数学的な表現を用いて理由を説明する活動に取り組みたい。(問題9(3))
- ② 領域「C関数」の「数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題」では、正答率は31.5%で、全国より2.4ポイント下回っている。また、無解答率は43.9%と最も高い。表やグラフ等から読み取った情報を基に、問題を解決するための方針を立て、その方法等を説明できる力が大切である。(問題7(2))P16、17 参照

問題ごとの
学習活動のポイント
(例)

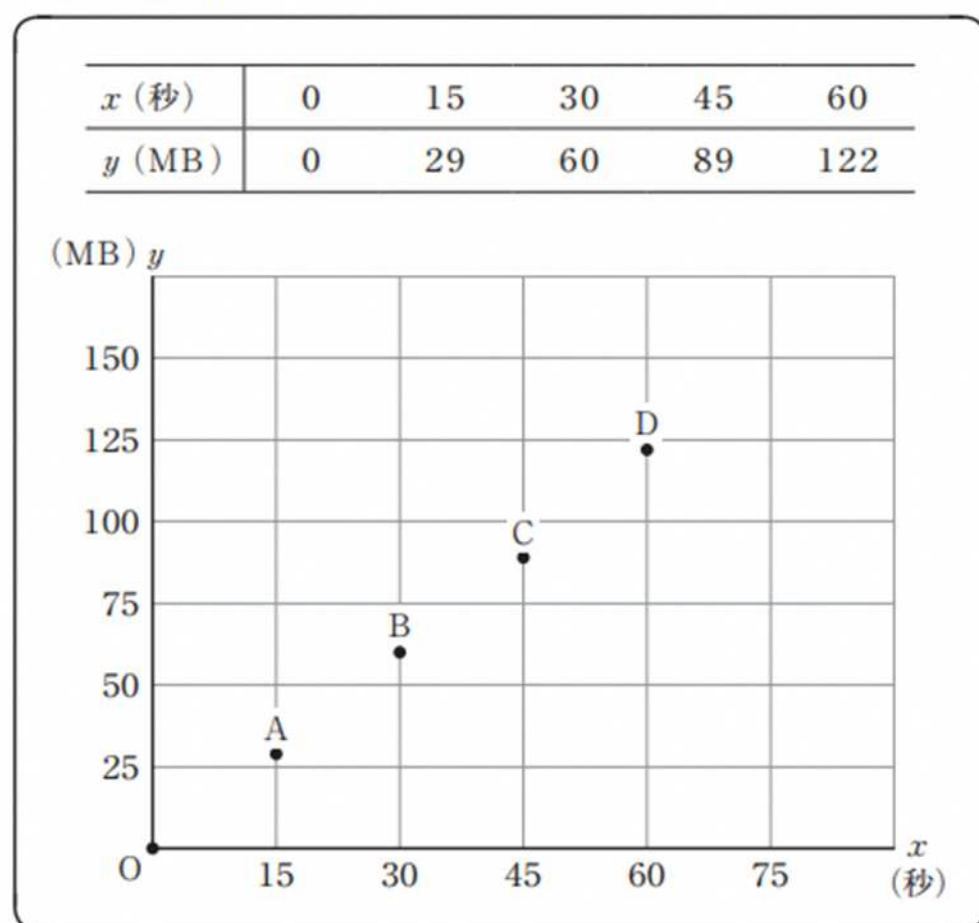
- ① 気温差等、日常の事象を数理的にとらえる活動を授業に取り入れ、習慣化する。また、事象を理想化・単純化し、基礎的な概念や原理・法則に当てはまるとみなして数学的に処理するなど、基礎的な技能を高めつつ、数学を利用することの意義を実感できるようにする。
- ①② データの分布の傾向を読み取る際には、最大・最小値の比較等にとどまらず、グラフの形や位置に着目し、「どのように分布の特徴を根拠として用いるか」という視点も指導していきたい。その際、統計グラフ作成ソフト等を用いて作成した図を基にレポートを作成し、よりよい解決や結論の方向性を見いだすことを目的に、多様な視点から考察し伝え合う活動を取り入れる。このような活動を通して、根拠を明確にした説明する力の育成を図っていく。
- ② 粘り強い思考を促すため、日常の事象を理想化・単純化し、解決の方針を立てる場面を設ける。また、一人1台端末を活用して考えた方針を即時共有しながら、解法の根拠を多角的に比較し推敲することで記述力を高める活動等が考えられる。さらに、試行錯誤の過程を表現し、互いの考えのよさを認め合う活動を通して、未知の状況でもあきらめずに粘り強く考える態度を養いたい。

- 7 光希さんのクラスでは、クラス紹介の動画を撮影することになりました。撮影する動画のデータ量は1000 MB^{メガバイト}までにすることになっています。

そこで、動画の時間によってデータ量がどのように変わるかを調べるために、同じ撮り方で時間だけを変えて動画を撮影し、動画の時間とそのデータ量を記録しました。そして、動画の時間が x 秒のときのデータ量を y MBとして、次のように表にまとめ、下のグラフに表しました。



調べた結果

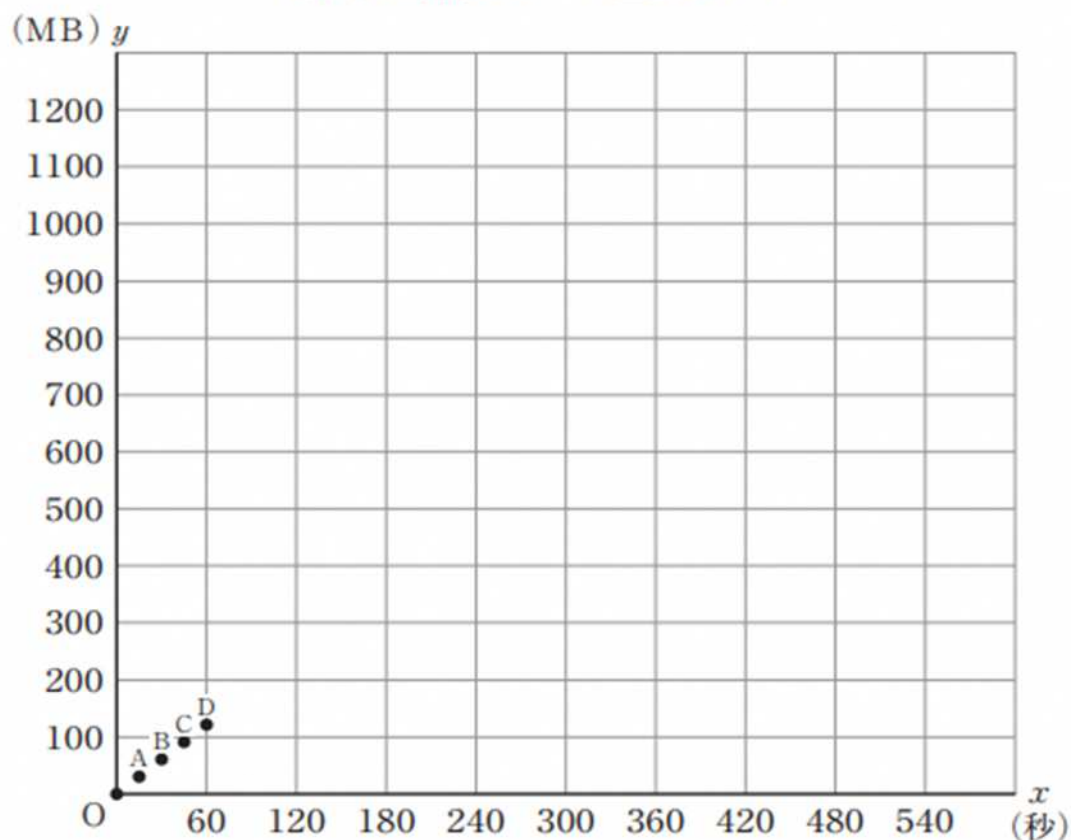


次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

- (1) 調べた結果の表をみて、グラフの点Cの座標を書きなさい。

(2) 光希さんは、1000 MB のデータ量で撮影できる動画の時間を調べるために、前ページの調べた結果を下のグラフに表しました。

動画の時間とデータ量のグラフ



動画の時間とデータ量のグラフにおいて、原点Oから点Dまでの点が一直線上にあるとし、動画の時間を長くしても、動画の時間とデータ量の値の組を座標とする点が同じ直線上にあると考えます。

このとき、データ量が1000 MBになるときの動画の時間はおおよそ何秒になるかを求める方法を、 x 座標や y 座標、 x の値や y の値など、 x や y を使って説明しなさい。ただし、実際に時間がおおよそ何秒になるかを求める必要はありません。

(●問題7(2) 正答率 31.5% 無解答率 43.9%)

(5) 中学校英語（「聞くこと」「読むこと」「書くこと」）

<CBT 問題の構成について>

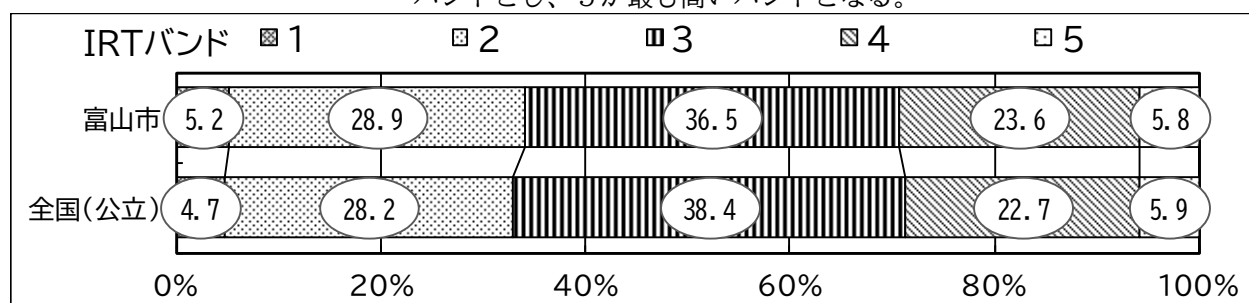
- ・公開問題「全員が取り組む問題（7問）プラス 一部が取り組む問題（3問）」と、「非公開問題（12問）」を組み合わせ合わせた合計22問で構成されている。

<集計結果>

- ・以下の集計値は、4月20日から4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。
- ・ICT 端末を用いたオンライン方式 CBT で実施しており、その調査結果については、500 を基準に算出した IRT スコア（児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論）で表示している。

平均 IRT スコア	富山市	富山県(公立)	全国(公立)
	495～505 未満	495～505 未満	499

<IRT バンドの分布比較>※ IRT バンドとは、IRT スコアを1～5段階に区切ったもの。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなる。



<「学習指導要領の内容」、「評価の観点」及び「問題形式」からみる状況>

凡例 ○ 全国を上回るもしくは同等の領域等・観点
▲ 全国を下回る領域・観点

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			富山市	全国(公立)
学習指導要領の 領域	(1)聞くこと	4【1】	▲ 61.2	62.8
	(2)読むこと	4【1】	▲ 58.2	60.0
	(3)話すこと(やり取り)	0		
	(4)話すこと(発表)	0		
	(5)書くこと	6	○ 43.6	43.1
評価の観点	知識・技能	4	▲ 58.3	59.8
	思考・判断・表現	12	▲ 52.1	52.8
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	10	▲ 59.7	61.4
	短答式／口述式	2	▲ 54.1	55.8
	記述式／口述式	4	○ 38.3	36.8

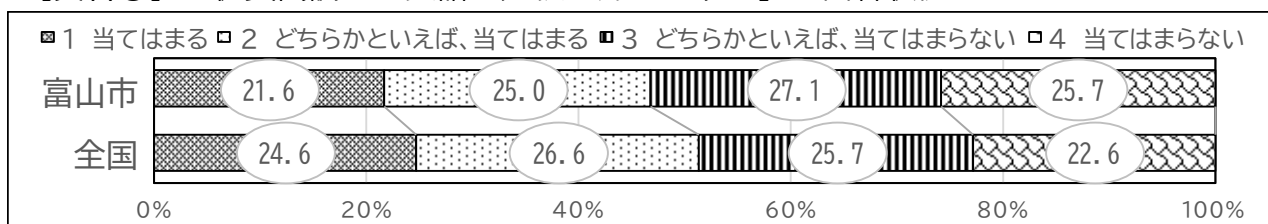
※学習指導要領の五つの領域別の目標に分類されない「知識及び技能」として示された問題について、【 】内の数で示している。

<結果の概要> （凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点）

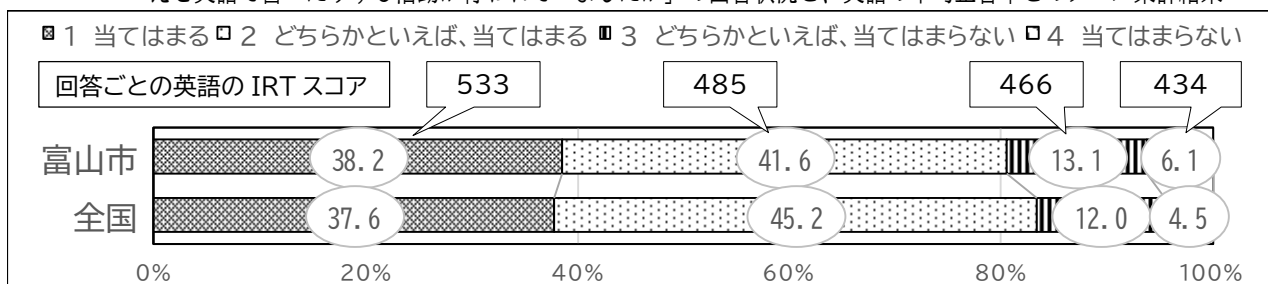
- IRT バンド分布を全国と比較すると、全てのバンドに属する生徒の割合はほぼ同じである。
- 領域「(5)書くこと」の問題の平均正答率では、全国より0.5ポイント上回っている。
- 問題形式のうち、「記述式／口述式」の問題の平均正答率は、全国より1.5ポイント上回っている。
- 領域「(2)読むこと」の問題の平均正答率では、全国より1.8ポイント下回っている。

<考察及び今後の指導について>

【資料①】生徒質問調査「英語の勉強は好きですか」の回答状況



【資料②】生徒質問調査「授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていましたか」の回答状況と、英語の平均正答率とのクロス集計結果



(○は平均正答率の高い問題、●は平均正答率が低い問題から特徴的なものを選んで記述した)

- ① 領域「(5)書くこと」の「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる問題」では、正答率は47.6%で、全国を3.6ポイント上回っている。自分や家族に関する身近な話題等について、英文にして事実を伝えたり、考えを述べたり、気持ちを伝えたりすることができている。(問題13)
- ② 領域「(2)読むこと」の「日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる問題」では、正答率は73.9%で、全国を1.5ポイント上回っている。書かれていることの全てを読み取ろうとするのではなく、自分の置かれた状況等から判断して必要な情報を把握する力が育っている。(問題7)
- ① 領域「(1)聞くこと」の「日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる問題」では、正答率は74.6%で、全国を3.9ポイント下回っている。天気予報や交通情報等、生徒にとって身近な生活と結びつけ、それらを基に目的に応じて、必要な情報を聞き取る活動を積み重ねることが大切である。(問題2)P21 参照
- ② 領域「(2)読むこと」の「社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる問題」では、正答率は44.2%で、全国を3.3ポイント下回っている。まとまりのある文章を最後まで読み、含まれている複数の情報の中から、書き手が最も伝えたいことは何であるかを判断してとらえる言語活動を継続して行う必要がある。(問題10(1))P20 参照

問題ごとの
学習活動のポイント
(例)

- ① 公共交通機関や店の模擬アナウンスを聞き、「自分が乗るべき電車のホーム番号」や「タイムセール開始時間」等、あらかじめ設定した特定の情報を聞き取ってメモする活動を取り入れる。また、リスニングの前に、ポスターや掲示物等から「どんな情報が聞き取れそうか」を予想し、その内容を確認しようと目的意識をもって聞く活動を行うなどの工夫もしながら、「必要な情報」を聞き取る力を高めていく。
- ② まとまりのある文章を読んだ後には、例えば、その文章に最もふさわしいタイトルを生徒同士で考えたり選択肢から選んだりする活動を行うなど、概要や要点をとらえる力を養いたい。また、【資料②】との関連から、読んだ内容を数文の英語に要約して書く活動を行うとともに、ペアやグループで「筆者が一番言いたかったことは何か」について根拠となる文を示しながら伝え合うなど、読んだ情報を整理して重要なものを判断する活動についても継続的に積み重ねるとよい。

中学生のまいこ(Maiko)が英語の授業でインターネットの使用に関する文章を書きました。次の(1)と(2)の問いに答えなさい。

(1) 【まいこが書いた文章】を読み、まいこが最も伝えたいことを、＜解答欄＞の1から4までの中から1つ選びなさい。

【まいこが書いた文章】

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.

Do you think my opinion is good?

＜解答欄＞

- ☐ 1 Many junior high school students use the internet to play games.
- ☐ 2 Junior high school students should use the internet for learning more often.
- ☐ 3 There are many good videos for learning English.
- ☐ 4 We can find the meaning of an English word quickly.

(●問題10(1) 正答率 44.2% 無解答率 0.4%)

2

<問題文>

あなたは、カバンを買うために、ショッピングセンターに来ています。英語の案内放送を聞いて、あなたが行くべき階(floor)として最も適切なものを、<解答欄>の1から4までの中から1つ選びなさい。



← 再生ボタンを押してください

【ショッピングセンター】



<解答欄>

- ☐ 1 1st floor
- ☐ 2 2nd floor
- ☐ 3 3rd floor
- ☐ 4 4th floor

(●問題2 正答率 74.6%
無解答率 0.0%)

(以下、「聞くこと」スクリプト 問題2)

② Welcome to our shopping center. This is the floor guide. On the first floor, we have some restaurants. Also, we have a supermarket. On the second floor, we have shops for computers, phones, and video games. On the third floor, we have a bookstore. On the same floor, we have many shops for bags, clothes, and shoes. On the fourth floor, you will find a movie theater. We hope you'll enjoy shopping today.

2 児童生徒質問調査の結果から 自尊感情等

肯定的な回答:「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を足したもの
 全国比:R8本市とR8 全国を比較したもの R7本市比:R8 本市とR7本市を比較したもの
 ◎:今年度新しく掲載された質問

	質 問	対 象	肯定的な 回答の割合	全国比	R 7 本市比	考 察
1	自分には、よいところがあると思う	小	83.3%	-2.3	-1.8	1、4 「自分には、よいところがあると思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」と感じている児童生徒の割合は全国よりやや低い。失敗を恐れず挑戦し、成長を実感できる環境を整えることや、児童生徒一人一人の成長や取り組みのよさを積極的に見取り、対話を通して、自己肯定感を育むことが大切である。 2 「将来の夢や目標をもっている」児童の割合は全国とほぼ同じであり、生徒の割合はやや低い。児童生徒が将来へのあこがれや見通しをもち、自己実現を図るためには、学校・家庭・地域が連携した多角的なアプローチが必要である。そのために、「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」などの職場体験活動を、自らの進路について深く考える機会とし、体験から学んだことをもとに、将来の夢や生き方を考えることができる機会を充実させる。
		中	83.4%	-0.6	-5.0	
2	将来の夢や目標を持っている	小	80.1%	-1.7	-1.4	
		中	64.2%	-3.4	-1.9	
3	人の役に立つ人間になりたいと思う	小	95.7%	-0.1	-0.5	
		中	96.2%	+0.3	-0.5	
4	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う	小	87.8%	-3.6	-2.7	
		中	88.2%	-2.7	-2.2	

規範意識

	質 問	対 象	肯定的な 回答の割合	全国比	R 7 本市比	考 察
5	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	小	96.7%	+0.5	-0.3	5、6 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。「人と違う意見を言っても否定されないと思う」児童生徒の割合は全国より低い。児童生徒が互いを対等に自由でユニークな存在として認め合い、互いに自分らしい考えを伝え合える授業づくりや、間違いやできないことを笑われない関係づくりが大切である。異なる立場や視点をもつ他者との対話や協働する活動をととして、自他を尊重しようとする態度を養うことが重要である。
		中	95.0%	-0.1	-1.8	
6 ◎	あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う	小	60.4%	-9.2	—	
		中	62.0%	-5.5	—	

授業での活動

	質 問	対 象	肯定的な 回答の割合	全国比	R 7 本市比	考 察
7	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる	小	84.3%	-1.4	+0.1	7 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。自己選択等による目的や意図を明確にした一人学習やペア・グループ学習等の場を保障することで、教材や仲間とのかかわり、自己内対話を生み出す「対話的な学び」を実現することが重要である。 8 「週3回以上 PC・タブレットなどの ICT 機器を使用した」児童生徒の割合は全国とほぼ同じであるが、昨年度に比べて児童の割合は低い。児童生徒が他者参照のツールとして用いたり、調べたことを整理・分析したりできるようにすることで、学びを深めるための活用の仕方を身につけることができる。また、教師は、即時的に一人一人の思考をとらえて必要感に応じた支援に生かしたり、共同編集によって協働する場を設定したりするなど、授業での効果的な活用を今後も工夫していきたい。
		中	84.7%	-2.3	0	
8	小学校5年生(中学生は1、2年生のとき)までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか	小	69.1%	+0.3	-7.2	
		中	78.3%	+0.1	+1.8	
9	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる	小	78.7%	-1.2	-4.5	9 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」という児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。調べたことのために加え、「何ができた(できなかった)か」「考えがどう変わったか」などの視点で振り返りを行い、新たな疑問や調べたいことが次時の課題につながるようにすることで、問題解決的な学習の充実を図りたい。
		中	82.2%	+1.4	-1.2	

家庭学習

	質 問	対 象	肯定的な 回答の割合	全国比	R7 本市比	考 察
10	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1時間以上勉強をしている	小	43.6%	-6.3	-7.7	10 「普段1時間以上勉強している」児童生徒の割合は全国より低い。授業の終末に、新たな疑問やさらに考えたいことを自主学習のテーマにしたり、自分の学習状況を自覚する場を設けたりすることで、主体的に家庭学習に取り組むことができるようにしたい。
		中	54.9%	-6.7	-5.8	
11	学校の授業時間以外に、普段、30分以上読書をしている(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)	小	25.7%	-0.4	-7.8	11 「普段30分以上読書をしている」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。また、昨年度より児童の割合は低く、生徒の割合はやや低い。児童生徒が「読んでみたい」「もっと知りたい」と思えるような、蔵書の活用や読書タイムの設定、家庭学習とつながる活動を工夫したい。
		中	16.9%	-1.1	-4.1	
12	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、30分以上PC・タブレットなどのICT機器を勉強のために使っている	小	35.2%	+0.6	-16.8	12 「普段30分以上PC・タブレットなどのICT機器を勉強のために使っている」児童の割合は全国とほぼ同じであり、生徒の割合はやや低い。また、昨年度より児童の割合はかなり低い。授業において、調べ学習以外にも意見交換やまとめ・表現の場でICT機器を活用することで、家庭学習における効果的な活用につないでいきたい。
		中	26.5%	-3.5	-9.5	
13	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている	小	79%	-0.4	-3.9	13 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。児童生徒が、「何をどのように学んだか」「何が分からないか」などを自覚するための振り返りの機会を確保することに加え、教師が一人一人の学び方をとらえて個に応じた支援を行うことで、自己調整力を高めることが大切である。
		中	79.2%	+1.0	+0.6	
14	家庭学習の課題(宿題)として、月1回以上、PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしている	小	41.6%	+1.9	-6.2 (R5比)	
		中	37.9%	+2.8	+3.5 (R5比)	

家庭での生活

	質 問	対 象	肯定的な 回答の割合	全国比	R7 本市比	考 察
15	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	小	80.1%	-2.7	+2.3	15 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」児童の割合は全国よりやや低く、生徒の割合はほぼ同じである。規則正しい睡眠をとる児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向がみられることから、児童生徒が自分の生活を振り返る場を設けたり、家庭と連携した取り組みを行ったりすることで、基本的な生活習慣の定着を図ることが重要である。
		中	79.6%	-0.9	-0.6	
16	普段(月曜日から金曜日)、1日当たり2時間以上、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等でSNSや動画視聴などを行っている(学習時間やゲーム時間を除く)	小	65.4%	+7.8	+31.2 (R6比)	16 「普段(月～金)1日当たり2時間以上SNSや動画視聴をしている」児童の割合は全国より高く、生徒の割合はやや高い。また、令和6年度調査時より、児童生徒ともかなり高くなっていることは、全国の傾向と同様である。PTAと連携した家庭への啓発はもとより、児童会・生徒会が主体となってメディアルールに関する取り組みを企画するなど、子どもと大人が一体となってメディアとの関わり方について考える機会をもちたい。
		中	79.0%	+4.1	+22.6 (R6比)	
17 ◎	学校での悩みについて、あなたの親や家族は、月に1～2回以上、あなたと話している	小	60.4%	+5.6	—	17 学校での悩みについて、親や家族と月に1～2回以上話している児童生徒の割合は、全国より高い。学校は、今後も家庭との連携を十分に図ることで、子どものよりよい成長を共に支えていきたい。
		中	62.5%	+5.8	—	

地域や社会に対する興味・関心

	質 問	対 象	肯定的な 回答の割合	全国比	R7 本市比	考 察
18	地域や社会をよくするために何かしたいと思う	小	81.5%	+1.4	-0.5	18 「地域や社会をよくするために何かしたいと思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。児童生徒が地域の清掃活動等に参加したり学校運営協議会委員の方との意見交換を行ったりすることで、地域や社会と自分とのつながりを実感する機会としたい。様々な教育活動とおして、社会参画意識の醸成を図ることが大切である。
		中	73.2%	+0.9	-4.5	

3 学校質問調査の結果から

肯定的な回答:「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を足したもの
 全国比:R8本市とR8全国を比較したもの R7本市比:R8本市とR7本市を比較したもの
 ◎:今年度新しく掲載された質問

児童・生徒指導等

	質 問	対 象	肯定的な 回答の割合	全国比	R 7 本市比	考 察
1	授業中の私語 が少なく、落ち着 いている	小	81.6%	-2.3	+6.6	1 肯定的な回答の割合は、小学校は昨年度より高く、中学校は昨年度と同じである。また、全国との差は小さくなっている。主体性のある子どもの育成に向けて、対話的な授業づくりと学習規律が両立し始めた成果であると考えられる。 <u>今後多様な子どもたちの実態をとらえ、個の学びを保障するとともに協働的な学びを充実させていく必要がある。</u>
		中	84.6%	-6.1	0	
2	将来就きたい 仕事や夢について 考えさせる指導をした	小	51.7%	-30.3	-15.5	2 肯定的な回答の割合は、小・中学校ともに昨年度よりかなり低い。将来の夢や希望を語り合ったり、働く人の姿や考え方にふれたりする機会の充実に努めるとともに、発達の段階に応じて、 <u>6年間または3年間を見通した系統的なキャリア教育の充実を図る必要がある。</u>
		中	88.5%	-9.0	-11.5	
3	学校生活の中で、 児童生徒一人一人 のよい点や可能性 を見付け評価する (褒めるなど)取組 を行った	小	96.7%	-2.1	-3.3 (R5比)	3 肯定的な回答の割合は、小・中学校ともに全国と同等である。小学校では、令和5年度調査時と比べてやや低い。 <u>ありのままの自分を肯定的にとらえる自己肯定感や他者のために役立ったという自己有用感を育むためにも、些細な成長を見取り、子ども一人一人との対話を大切にしたい取り組みを継続する。</u>
		中	96.2%	-2.1	0 (R5比)	

学校運営に関する状況

	質 問	対 象	肯定的な 回答の割合	全国比	R 7 本市比	考 察
4	教員が授業で問 題を抱えている場 合、月数回程度よ り多く、率先して そのことについて 話し合った	小	68.3%	-11.2	-6.7	4 月数回程度より多く行ったという回答の割合は、小・中学校ともに全国よりかなり低い。中学校は昨年度よりやや高い。各学校の実情に応じた校内研修体制が充実してきている成果である。 <u>引き続き、キャリアステージに応じた外部の研修や他校の授業参観での学びを、教職員自身の実践とつなぎながら、課題をもち、主体的に自己研鑽を重ねていくことが大切である。</u>
		中	50.0%	-15.2	+3.9	
5	児童生徒の姿や地 域の現状等に関する 調査や各種データ等 に基づき、教育課程を 編成し、実施し、評価 して改善を図る一連 のPDCA サイクルを確 立している	小	93.3%	-4.0	-0.5	5 肯定的な回答の割合は、全国より小学校はやや低く、中学校は低い。学校の教育目標の実現に向けて、全教職員がベクトルを合わせ、地域や保護者の理解と協力を得ながら、さらなる改善を図るサイクルを構築することが大切である。
		中	88.5%	-7.4	-3.8	

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

	質 問	対 象	肯定的な 回答の割合	全国比	R 7 本市比	考 察
6	授業では、課題の 解決に向けて、自分 で考え、自分から取 り組むことができ ている	小	73.3%	-14.8	-9.5	6、7 「課題の解決」「学級活動」について、肯定的な回答の割合は、昨年度より小学校は低い、中学校はやや高い。 <u>児童生徒が自己選択・自己決定する場を取り入れるなど、授業改善への意識が高まっていると考えられる。児童生徒が「解決したい」と思える課題設定の工夫や、課題にじっくり向き合う授業づくりの推進が重要である。また、試行錯誤を繰り返す問題解決的な学習や、様々な場面で対話を通じて自己の考えを問い直し、新たな考えをつくり出す深い学びの実現を目指したい。</u>
		中	73.0%	-14.2	+3.8	
7	学級活動の授業を 通して今、努力すべ きことを学級での話 合いを生かして、一 人一人の児童生徒が 意思決定できるよう な指導を行っている	小	83.3%	-9.4	-5.8	8 肯定的な回答の割合は、昨年度より小学校はかなり高く、中学校はやや高い。今後も、答えが一つではない道徳的な課題について、発達の段階や実態に応じた指導の工夫を大切にしたい。
		中	84.6%	-7.3	+11.6	
8	特別の教科 道徳 において、取り上 げる題材を児童生徒 自らが自分自身の問 題として捉え、考え、 話し合うような指導 の工夫をしている	小	93.4%	-3.0	+10.5	
		中	92.3%	-4.5	+3.8	

ICT の活用

	質 問	対象	肯定的な 回答の割合	全国比	R 7 本市比	考 察
9	一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業で週3日以上活用した	小	95.0%	-0.4	-1.9	9、10 授業でのICT機器の活用頻度について、昨年度より小学校はやや低く、中学校は低い。肯定的な回答は8割以上であり、一定程度定着していると考えられる。「まとめ・表現」の場面での週3回以上の使用は、全国より小学校は低く、中学校はかなり低い。学びの充実を図るためにも、課題解決の各場面（課題をもつ、情報収集、整理・分析、まとめ・表現）において、児童生徒自らが判断し、必要に応じて効果的にICT機器を活用するような主体的な使い方を工夫していきたい。
		中	84.6%	-9.0	-7.6	
10	児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、週3回以上、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用した	小	45.0%	-6.9	-0.4	
		中	23.1%	-24.8	-34.6	

特別支援教育

	質 問	対象	肯定的な 回答の割合	全国比	R 7 本市比	考 察
11 ◎	授業の中で、発達障害を含む障害のある児童生徒も含めた、多様な児童が通常の学級に在籍していることを前提に、学級全体での指導の工夫を行った	小	95.0%	-3.8	—	11 肯定的な回答の割合は、全国より小学校はやや低く、中学校は低い。各学校においては、特別な支援を必要とする児童生徒への様々な合理的配慮の提供が行われている。今後も発達障害を含む障害のある児童生徒のみならず、多様な背景をもつ児童生徒が在籍していることを前提にした安心できる学級づくりを基盤として、子ども理解に基づいた授業や指導を行っていく必要がある。
		中	88.5%	-9.4	—	

小学校教育と中学校教育の連携

	質 問	対象	肯定的な 回答の割合	全国比	R 7 本市比	考 察
12	近隣等の小（中）学校と教科の教育課程の接続や教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取り組みを行った	小	38.3%	-28.7	+7.1	12 肯定的な回答の割合は、全国より小・中学校ともかなり低い。令和7年度より行っている「区域を核とした研修」の機会に、各校の研修の切り口を踏まえて授業を参観したり、小・中の接続を念頭に置いて児童生徒理解を深めたりするなど、今後も、研修の機会を有効に活用することが大切である。また、児童生徒理解を基にしながら教育課程の接続や共通の取り組みについて互いに意見交換する機会を設定していきたい。
		中	38.4%	-33.6	-0.1	

家庭や地域との連携

	質 問	対象	肯定的な 回答の割合	全国比	R 7 本市比	考 察
13	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった	小	95.0%	+5.9	-3.4	13 肯定的な回答の割合は、全国より小学校は高く、中学校はやや高い。地域及び家庭の課題解決等にも資する取り組みが充実してきている。今後もコミュニティ・スクールの機能を生かし、学校と家庭、地域とが、ビジョンを共有しながら、特色ある学校づくりを推進したい。
		中	88.5%	+4.1	-3.9	

調査結果の活用

	質 問	対象	肯定的な 回答の割合	全国比	R 7 本市比	考 察
14	令和7年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した	小	85.0%	-11.7	-4.1	14 肯定的な回答の割合は、全国より小・中学校ともかなり低い。調査の結果から、児童生徒の実態を把握するとともに、各校が取り組んできた教育活動について振り返り、丁寧に分析する必要がある。明らかになった成果や課題を学校全体で共有し、授業や指導の改善に生かす体制づくりが重要である。
		中	65.3%	-28.3	-11.6	

V 今後の取り組み

1 調査結果の取り扱い

市教育委員会では、平成19年度から令和8年度までに実施された16回の「悉皆調査」と2回の「抽出調査」において、現状に即した教育に努めるため調査結果を公表してきた。

今年度の調査結果を分析することにより富山市における課題を明らかにし、今後の授業改善に向けた指導のポイントについて提案する。また、各学校では、本調査の結果を詳細に分析し、学校全体の学力・学習状況の傾向や自校の課題について、全教職員で共有することが大切である。分析するにあたり、数値のみにとらわれず、児童生徒の個々の学力状況や日ごろの学習の様子と学力調査等の分析結果を結びつけ、多面的、総合的に課題を明らかにして、日常の授業を改善していくものとする。

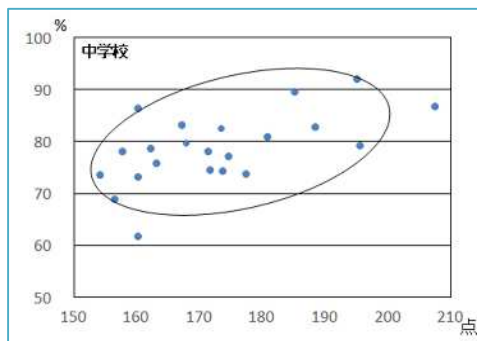
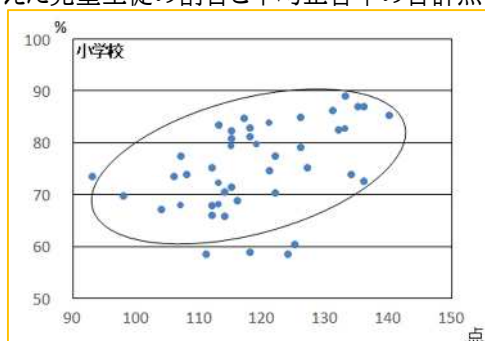
2 教科に関する調査と児童生徒質問調査及び学校質問調査の関連

(1) 学校ごとの平均正答率の合計と児童生徒質問調査の回答状況との相関関係

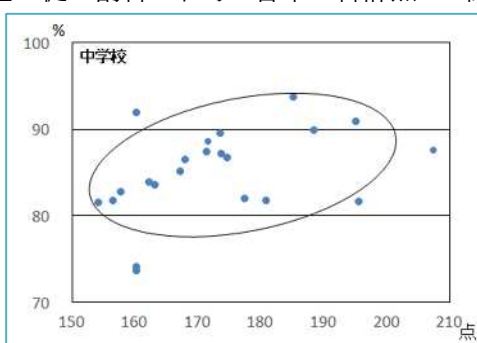
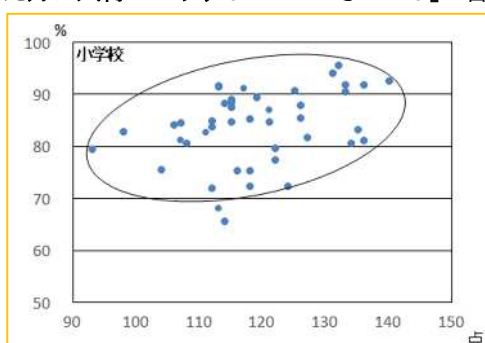
※ 小学校は2教科、中学校は英語3技能の予測平均正答率を含む3教科の平均正答率で示す。

①「問題解決的な学習」に関すること

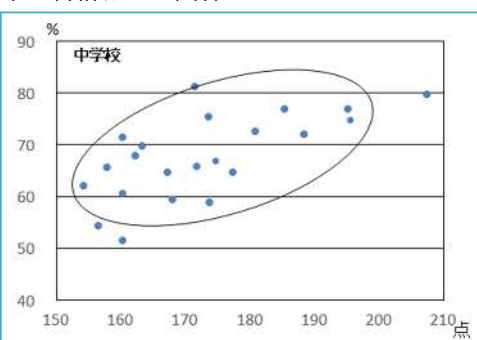
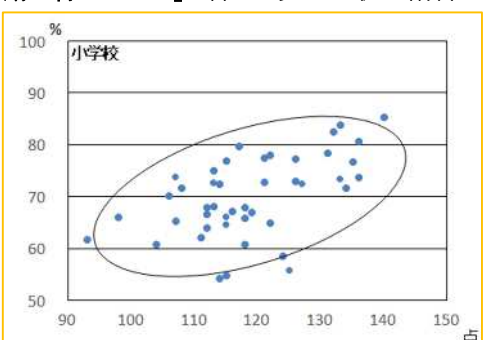
- 児童生徒質問調査39「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



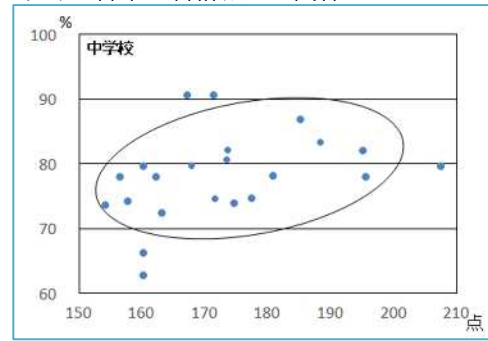
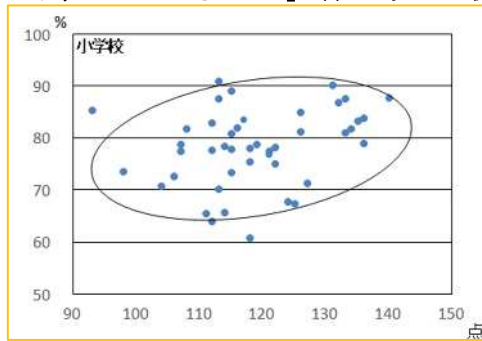
- 児童生徒質問調査42「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



- 児童生徒質問調査40「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係

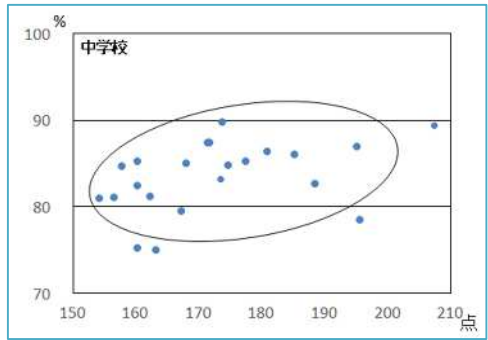
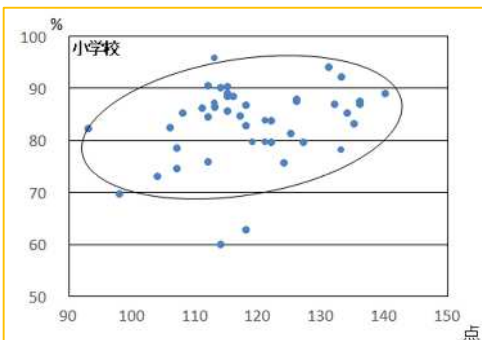


- 児童質問調査43 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係

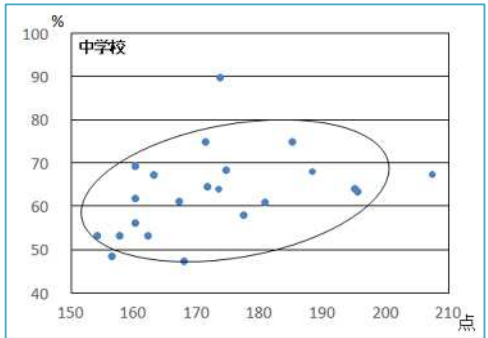
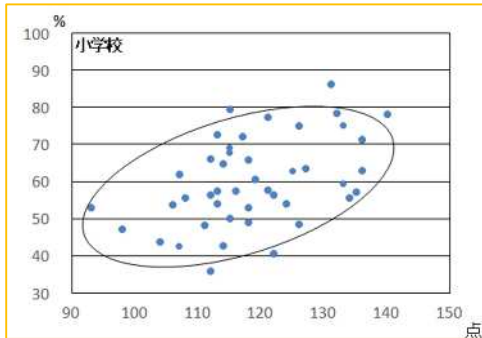


②「非認知能力」に関すること

- 児童生徒質問調査8 「自分には、よいところがあると思う」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係

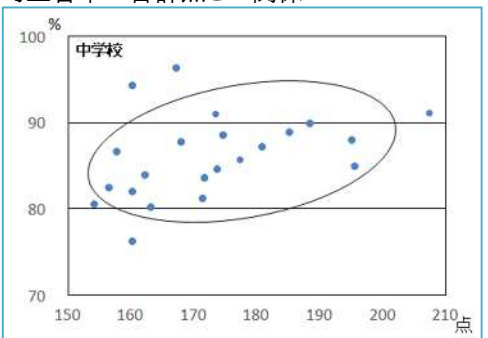
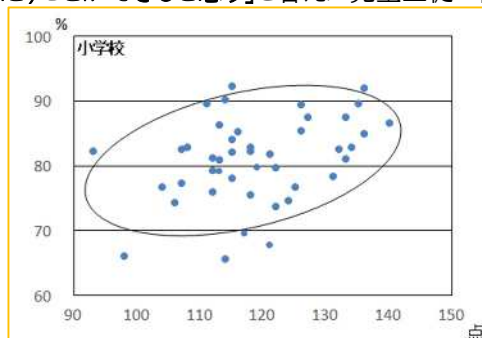


- 児童生徒質問調査20 「あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係

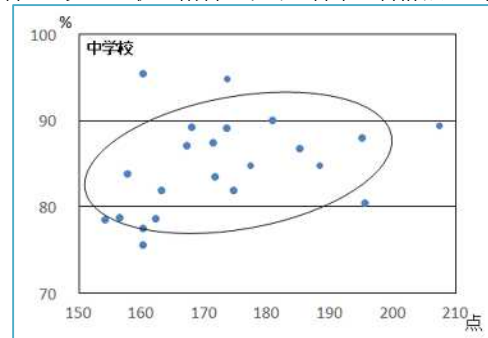
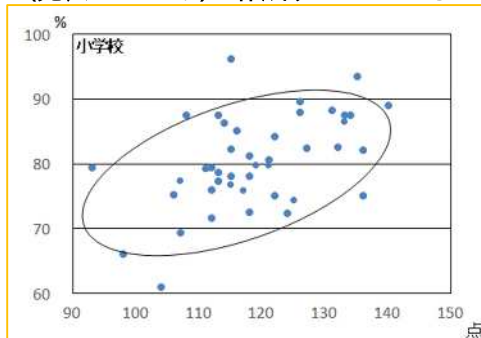


③ICTの活用に関すること

- 児童生徒質問調査36-1 「PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができると思う」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係

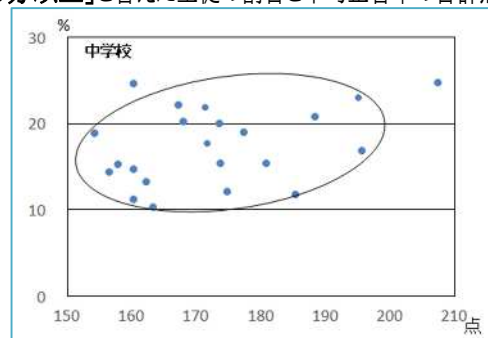
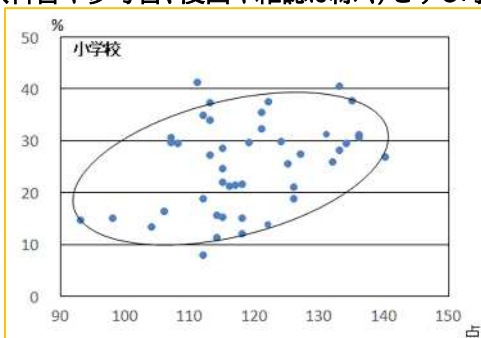


- 児童生徒質問調査36-4 「PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校での活動でプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると思う」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係

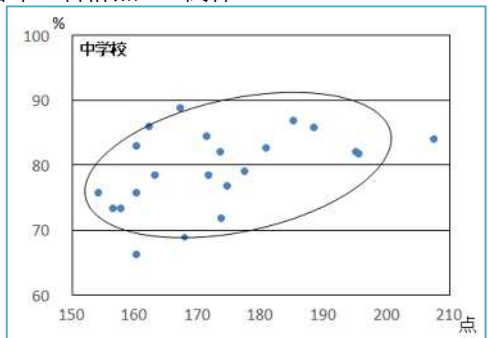
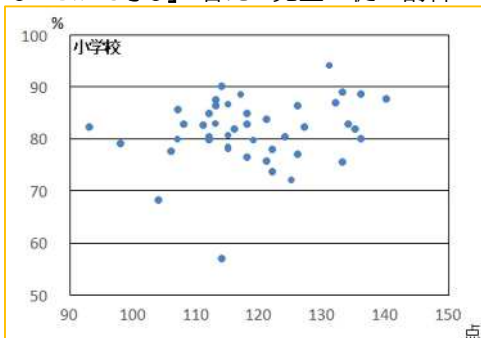


④ 「家庭での過ごし方」に関すること

- 児童生徒質問調査 26 「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりの読書(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)をする時間が30分以上」と答えた生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



- 児童生徒質問調査44 「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



<データの取り扱いについて>

- ※ 本項における分析においては、各学校の平均値を用いていることから、実施児童生徒数が20名以上の学校を対象とした。
- ※ 相関係数が+0.25 以上の場合は、図に楕円の○を書き入れ、相関の特徴を表している。

以上の結果から、次の4点の内容が平均正答率に影響があると推察できた。

＜本市における授業改善に向けた指導の重点－令和8年度の全国学力・学習状況調査から－＞

- 1 「問題解決的な学習」の充実 －児童生徒が自ら解決したい問いを決め、解決のために試行錯誤を繰り返し、成果と課題を振り返り表現するための手立て－
- 2 「非認知能力の育成」－課題の解決に向けて主体的に取り組む態度、仲間と協働する力をはぐくむ－
- 3 授業でのICT活用 －個や協働の各場面における端末の活用－
- 4 「家庭でのくらし」の充実 －学校の授業と家庭学習のリンク－

これらの4点については、これまでも各学校において取り組んできたが、今後も引き続き授業改善に向けた工夫を考え、継続して取り組んでいく必要がある。

- (2) 学校質問調査の各質問項目における平均正答率からみた2教科合計ポイントの平均
- 以下に、平均正答率と相関関係があった児童生徒質問調査の項目に関連した学校質問調査の一部の項目を挙げた。※2教科は国語科と算数科・数学科を示す。

質問事項	回答		
()内は、(小学校質問調査での質問番号 / 中学校質問調査での質問番号)とした	上段：平均正答率からみた2教科合計ポイント平均 下段：回答学校数		
	☐ そう思う ☐ どちらかといえば、そう思う ☐ どちらかといえば、そう思わない ☐ そう思わない ☐ その他・無回答		
(26/26) 調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている	129点 11校	122 52	111 23
(32/32) 児童生徒がそれぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫した	127 28	120 44	107 9
(33/33) 授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた	129 14	122 48	112 20
(34/34) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした	128 12	121 51	114 18
(35/35) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、関連する既習事項を振り返り、知識を総合的に関連付ける学習活動を行った	128 16	121 50	110 16
(38/38) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行った	126 37	116 26	120 15
(41/41) 学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っている	125 33	117 44	114 8
(42/42) 学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導を行っている	126 22	118 50	119 13
(60/68) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業で活用した	124 46	119 20	116 13
(62/70) 児童生徒同士が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させている	126 14	121 19	120 24
(67/75) 児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、家庭で利用できるようにしている	125 21	117 9	119 53
(82/90) 家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行った	122 29	121 43	113 10

※回答学校数が5校以下の項目の数字は省く。

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

3 授業改善に向けた指導の重点

児童生徒質問調査（以下、「質問調査」という。）において、学習活動に関して、
「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいた」
「自分の学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う」
「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う」

の項目などに肯定的な回答をした児童生徒の割合と平均正答率に正の相関があるという結果がみられた。

また、授業においてＩＣＴ機器を活用する技能として、「文章やプレゼンテーションを作成できると思う」の項目に肯定的な回答をした児童生徒の割合と平均正答率に正の相関があるという結果がみられ、その程度は学校によって差があり、ＩＣＴ機器の活用や授業における使用場面との関連が考えられた。

以上のことを踏まえ、次の４点が本市における授業改善に向けた指導の重点として考えられる。

＜本市における授業改善に向けた指導の重点

—令和８年度の全国学力・学習状況調査から—>

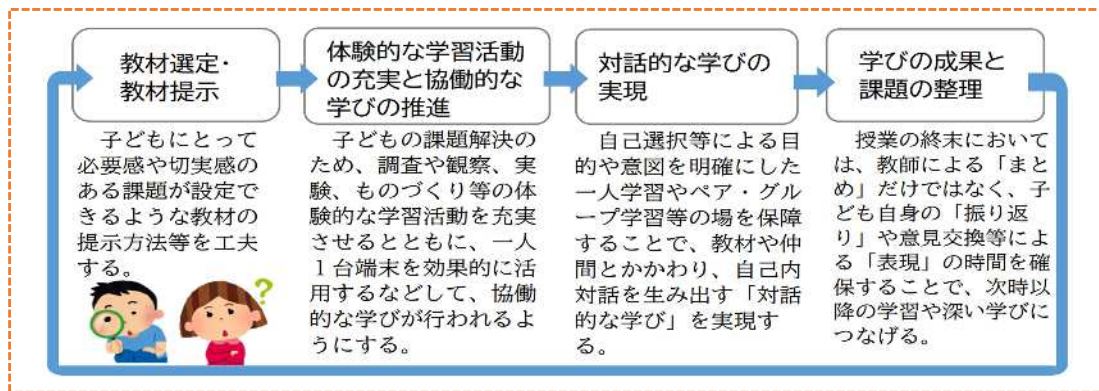
- 1 「問題解決的な学習」の充実 – 児童生徒が自ら解決したい問いを決め、解決のために試行錯誤を繰り返し、成果と課題を振り返り表現するための手立て –
- 2 「非認知能力の育成」 – 課題の解決に向けて主体的に取り組む態度、仲間と協働する力をはぐくむ –
- 3 授業でのICT活用 – 個や協働の各場面における端末の活用 –
- 4 「家庭でのくらし」の充実 – 学校の授業と家庭学習のリンク –

それぞれの授業改善に向けた指導の重点について、ポイントを挙げる。

(1)「問題解決的な学習」の充実 – 児童生徒が自ら解決したい問いを決め、解決のために試行錯誤を繰り返し、成果と課題を振り返り表現するための手立て –

教師がテーマを提示し、そのテーマを基に、児童生徒が自分の内側から湧いてくる問いに気づき、自ら解決したい問いを決め、解決のための計画を立て、情報収集を行い、必要な実践の後、結果を考察し発表するといった一連の活動に取り組む問題解決的な学習、いわゆるPBL（ProjectまたはProblem Based Learning）の充実を図ることが引き続き重要である。

富山市学校教育指導方針（以下、「指導方針」という。）のP.14「学習指導」における「2 問題解決的な学習の展開」では、次のように示している。



質問調査において、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う」の項目に肯定的な回答をした児童生徒の割合と平均正答率に正の相関があったことから、これまでに実践されてきた、各教科と総合的な学習の時間、特別活動との連携、教科で取り扱う内容や行事の精選といった、教科横断的なカリキュラム・マネジメントの実践の成果が表れていると考えられる。今後も、児童生徒の資質・能力の育成に向けて、児童生徒が自分の考えや課題を更新しながら、問題解決的な学習を繰り返すことができるように、教師が各教科等の内容や系統性を理解し、問題解決的な一連の学習を構想し実践することが大切である。

さらには、問題解決的な学習を進める中で、情報を整理・分析する際には、児童生徒が自分の考えを構築するために、全体での対話の場面（教師と子ども、子ども同士）や自由な聞き合いの機会を設けたり、一人1台端末（以下、「端末」という。）を用いて、他者参照の機会を保障したりするなどして、自己内対話を生み出すことが有効である。

また、授業の終末において分かったこと等をおさえる「まとめ」とは質的に異なる、問題解決的な学習の過程における「まとめ・表現」では、相手や目的に応じて根拠を示しながら課題に対する各自の考えについて意見交換する時間を設けたり、児童生徒自身が気づいたことや知りたいこと等を振り返る時間を確保したりして、児童生徒自身が考えや課題を更新しながら次時以降の学習や深い学びにつないでいくことができるようにすることが大切である。

このような問題解決的な学習の充実に向けて、次のような適切な手立てを継続して行うことが、児童生徒の力を高めていくことを改めて確認したい。

① 児童生徒が自ら解決したい問いを決めるための手立て

(ア) 「疑問を感じる種をまく」

- ・ 様々な場面において「どうして?」「なぜ?」と疑問をもつことができるよう、教師が日ごろから「はてな」を投げかける。子どもがつぶやいたり表情を変えたりする様子から、子どもの「分からなさ」や「疑問」を見取ることで、子ども自らの問いを生み出す。
- ・ 実物や写真、動画等を効果的に用いて教材の魅力等を伝え、子どもの「追究したい」という意欲を高める。

(イ) 「解決したくなるテーマで学習を展開する」

- ・ 児童生徒の実態に合わせ、既習内容や生活とつなげて考えられる身近なテーマを選定する。
- ・ 児童生徒自身が必要感や切実感をもてる課題を設定できるようにする。

② 児童生徒が解決のために試行錯誤を繰り返すための手立て

(ア)「失敗を受け入れられる集団づくり」

質問調査において「自分の学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う」の項目に肯定的な回答をした児童生徒の割合と平均正答率に正の相関があったことから、引き続き児童生徒が失敗を恐れずに挑戦できる学習環境を整えていくことが重要である。指導方針 P.13「学年・学級経営」における「主体性のある子どもを育成する学年・学級経営」として掲げる重点を確認し、児童生徒が、自己肯定感や自己有用感をもって自らの成長を実感できる学年・学級運営に努めることが重要である。

また、指導方針 P.28「イエナプラン的教育」の「20の原則」の一つに「すべての人はユニーク」がある。一人一人が尊重される集団づくりも大切にしたい。

(イ)「『自分が動けば何かが変わる』経験をする」

児童生徒を「持続可能な社会の創り手」へと育て上げるために、新しいものを創り上げたり今まであったものごとを変化させたりする経験が必要である。知識としてだけでなく、参画してみて失敗も成功もあるような、特別活動や総合的な学習の時間等を通した、実感を伴う体験が望ましい。また、指導方針 P.27 からの「第2章『主体性のある子どもの育成』に向けた授業改善」を参考にし、中でも指導方針 P.30 の「アルバ・エデュ」の取り組みもヒントとしてもらいたい。

(ウ)「子どもの柔軟な思考を生かす授業の展開」

児童生徒の発言や学びに向かう姿を柔軟に受け止める姿勢をもつ。児童生徒一人一人の考えの背景や発展の可能性等を教師が見いだし、機を逃さず個に応じた支援（教師との対話、課題の解決に向けた時間の保障、意見の取り上げ方を工夫するなど）を行うことで、児童生徒が自分のよさや可能性を感じながら学びを充実させていけるようにしたい。

③ 児童生徒が成果と課題を振り返り表現するための手立て

指導方針 P.27 のように、問題解決的な学習では4つの学習過程を繰り返して学びを継続していく。特に「まとめ・表現」の場面では、自分の学びの過程を踏まえ、その成果と課題を振り返る時間を確保し、次の活動へつなげていくことが重要である。

また、一人一人の児童生徒が「何が気になったのか」「どのように取り組んできたのか」といったことも振り返りながらまとめたり、「何を伝えたいか」を考えたりする際に、その内容や技能に適したツール（ノート、端末、ホワイトボード等）や方法（文章、図絵、プレゼンテーション等）について具体的に学ぶ機会をつくり、効果的に活用することができるようになることも必要である。

教師が表現の方法等を限定するのではなく、児童生徒が自分なりの根拠をもって学びのまとめ方や振り返り方を自己決定して表現できるようにしていきたい。

「まとめ・表現」の場面では、児童生徒一人一人が各自の視点からのまとめを行ったうえで、考えを出し合いながら意見交換等に取り組む。一人一人がもつ視点に深まりが生まれたり新たな視点への気づきがあったりすることで、新たな課題が設定され、次の問題解決的な学習がスタートする授業を構想したい。

(2)「非認知能力」の育成

－課題の解決に向けて主体的に取り組む態度、仲間と協働する力を育む－

非認知能力は、幼児期後半から、「自分で決定したことを実行する」「成功体験や失敗体験を積み重ねる」「仲間と協働的に活動する」などを通して獲得されていくと言われる。教師は、授業（単元）を構想する際、「この授業（単元）において、児童生徒はこのようなことを楽しんで取り組んでいくだろう」「児童生徒は、ここで乗り越えなければならない問題に出合うであろう」「このようなことを児童生徒が自分で決定できるようにすれば、より主体的に進めていくのではないか」「このような教材を児童生徒に提示すればこのような問いが生まれるだろう」「仲間と共に学ぶ必然性はどこに生まれるだろう」など、児童生徒の具体的な姿を想定し、支援や手立て、学習環境を工夫しておくことが大切である。教師がこのように授業を構想しておくことによって、児童生徒の発想や可能性をつぶさに感じられるようになり、教師の予想を超える児童生徒の発言や姿にも共感したり、共に考えたりできるようになる。

また、児童生徒は、体験したことを整理、分析する中で、これまでの経験と比較したり新たな気づきを得たりして学びを深めていく。その過程では、対話することを大切にしたい。体験を通して、「どのようなことを感じたのか」、「どのようなことを考えるようになったのか」などを、児童生徒同士、児童生徒と教師等対話を重ねる中で、児童生徒が自分なりの言葉で表現し、その言葉を仲間や教師がよく聞き、受け止めたり、認めたりする。この過程を通して、児童生徒は自分のよさや可能性を感じ、自己肯定感を高めることにつながる。そのようななかわりの中で、非認知能力が育まれていくことが期待できると考える。

(3)授業でのICT活用 －個や協働の各場面における端末の活用－

学校質問調査において、「児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか」の項目に対して、高い頻度で活用した学校の児童生徒の平均正答率が高かったことから、児童生徒が自分の学びの過程を含めた成果や課題を端末を使って振り返る中で、教師が一人一人の状況をとらえ、個に応じた助言や支援をすることが児童生徒の学力向上につながっていると考える。また、「児童生徒同士がやりとりする場面で一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を高い頻度で活用した」と回答した学校の児童生徒においても平均正答率が高かったことから、児童生徒が端末を活用して自分の意見をまとめることで、自分と仲間との意見の違いを容易に比べることが可能になり、考えを深めたり、広めたりする機会が充実してきたことも、児童生徒の学力向上につながっていると考える。

さらに、先に述べた問題解決的な学習に取り組む中で、児童生徒が様々な学習場面において、自ら判断し、必要に応じて端末を活用するといった、主体的な学びにつながる使い方を身につけていくことができるよう指導することが不可欠である。学校間の差が生じないように、引き続き、富山市全体で端末活用の好事例を共有し、指導に生かしていくことが重要である。

(4)「家庭でのくらし」の充実 ―学校の授業と家庭学習のリンク―

質問調査において、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う」の項目に肯定的な回答をした児童生徒の割合と平均正答率にやや正の相関があったことから、学校の授業と家庭学習に連続性をもたせることで、学力の向上が期待できると考えられる。児童生徒の興味関心をとらえて、課題意識をもたせるためには、授業における「振り返り」の時間を確保することが有効であると考ええる。

指導方針「関連資料 電子データ 1-4」には、学習のまとめと振り返りについてポイントを挙げてある。学習内容を確認する「まとめ」とは異なり、「振り返り」は自分の学びを客



観視し、これまでの経験や学習と関連づけながら学んだことを意味づけていくものである。「振り返り」によって新たな問いや次への見通しをもつことができる。その際の視点として「分かったこと」「新たな疑問」「更に考えたいこと」「家庭で考えたいこと」などを示す工夫をすることで、家庭学習への連続性につながるものと考えられる。

また、質問調査において、「学校の授業時間以外に、平日30分以上の読書に取り組む」と回答した児童生徒の割合と平均正答率に正の相関があった。自分のくらしを充実させるために、自ら知識を獲得したり、知的好奇心を満たしたりすることは、学力の向上につながるものとみられ、家庭との連携や生活習慣の改善と合わせて取り組んでいく必要があると考える。

これらの家庭との連携を意識した取り組みにより、児童生徒自身が学ぶことの意義を実感することができ、結果として学力の向上につながっていくと考えられる。各学校の実態に応じ、家庭学習の充実に向けた方策を考えていくことが必要である。

授業改善に向けた指導の重点を述べてきたが、平均正答率が高い学校に共通していると思われるのは、学校教育目標の実現に向けて、学校の特色を生かした組織的・計画的な研修を全校体制で推進していることである。日ごろから自由に意見交換ができる職場の雰囲気の中、研修の成果を教育活動に生かしたり、日常的な実践を継続したりすることが児童生徒の学力向上につながると考えられる。

〈資料〉

- 1 全国学力・学習状況調査
富山市と全国、県との平均正答率・平均 IRT スコアの比較
- 2 小学校6年生 設問別結果一覧
- 3 中学校3年生 設問別結果一覧
- 4 児童生徒質問調査
- 5 学校質問調査

全国学力・学習状況調査 富山市と全国、県との平均正答率・平均IRTスコアの比較 (H19～R8)

・H19、20、21、25、26、27、28、29、30、31、R3、R4、R5、R6、R7、R8：対象学年全員参加方式で実施。
・H22、24：抽出方式で実施。（抽出方式のため、全国及び県の値は中央値で示す。）
・H23、R2：未実施。

※ 平成28年度より、整数値で公表(平成29年度からは、文部科学省から届く市・県の調査結果が整数値)

【小学校 6 年生】

		国語 A											国語 B											国語							
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R3	R4	R5	R6	R7	R8	
平均正答率	富山市	83.9	68.1	72.1	85.3	83.6	62.7	74.2	72.1	75	79	75	66.0	54.6	51.3	79.3	61.3	50.9	60.2	70.2	62	62	60	70	66	67	69	68	69	63	
	市ー全国	2.2	2.7	2.2	1.8	2.0	0.0	1.3	2.1	2	4	4	4.0	4.1	0.8	1.5	5.7	1.5	4.7	4.8	4	4	5	6	1	1	2	0	2	2	
	市ー県	0.0	-0.7	-0.3	0.2	0.1	-1.1	0.1	-0.8	0	1	1	0.0	0.3	-0.4	0.8	0.9	0.2	0.7	0.1	1	2	2	2	-1	0	0	-1	0	1	
	富山県	83.9	68.8	72.4	85.1	83.5	63.8	74.1	72.9	75	78	74	66.0	54.3	51.7	78.5	60.4	50.7	59.5	70.1	61	60	58	68	67	67	69	69	69	62	
	県ー全国	2.2	3.4	2.5	1.6	1.9	1.1	1.2	2.9	2	3	3	4.0	3.8	1.2	0.7	4.8	1.3	4.0	4.7	3	2	3	4	2	1	2	1	2	1	
	全 国	81.7	65.4	69.9	83.5	81.6	62.7	72.9	70.0	73	75	71	62.0	50.5	50.5	77.8	55.6	49.4	55.5	65.4	58	58	55	64	65	66	67	68	67	61	

		算数 A											算数 B											算数							
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R3	R4	R5	R6	R7	R8	
平均正答率	富山市	86.3	76.1	80.4	77.0	77.0	79.7	81.7	79.0	81	84	68	67.1	55.7	56.6	51.4	62.0	60.8	62.8	47.7	53	49	57	70	73	66	65	64	60	57	
	市ー全国	4.2	3.9	1.7	2.8	3.7	2.5	3.6	3.8	3	5	4	3.5	4.1	1.8	2.1	3.1	2.4	4.6	2.7	6	3	5	3	3	3	2	1	2	1	
	市ー県	0.5	0.1	-0.1	0.9	0.5	0.0	0.7	0.5	0	2	2	0.7	0.6	-0.2	0.9	0.7	0.4	0.8	0.2	2	2	2	1	0	0	0	0	-1	1	
	富山県	85.8	76.0	80.5	76.1	76.5	79.7	81.0	78.5	81	82	66	66.4	55.1	56.8	50.5	61.3	60.4	62.0	47.5	51	47	55	69	73	66	65	64	61	56	
	県ー全国	3.7	3.8	1.8	1.9	3.2	2.5	2.9	3.3	3	3	2	2.8	3.5	2.0	1.2	2.4	2.0	3.8	2.5	4	1	3	2	3	3	2	1	3	0	
	全 国	82.1	72.2	78.7	74.2	73.3	77.2	78.1	75.2	78	79	64	63.6	51.6	54.8	49.3	58.9	58.4	58.2	45.0	47	46	52	67	70	63	63	63	58	56	

【中学校 3 年生】

		国語 A											国語 B											国語							
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R3	R4	R5	R6	R7	R8	
平均正答率	富山市	84.6	77.7	82.1	79.4	78.1	79.2	82.3	79.1	78	80	78	76.0	66.8	80.5	70.6	66.7	71.1	55.6	69.5	71	76	63	76	66	70	71	60	55	64	
	市ー全国	3.0	4.1	5.1	4.3	3.0	2.8	2.9	3.3	2	3	2	4.0	5.9	6.0	5.3	3.4	3.7	4.6	3.7	4	4	2	3	1	1	1	2	1	0	
	市ー県	-1.1	-0.3	0.3	0.9	0.0	0.3	0.0	1.0	0	0	0	-1.0	-0.3	0.4	1.0	-0.3	0.7	0.5	1.3	0	1	0	0	1	0	0	0	-1	0	
	富山県	85.7	78.0	81.8	78.5	78.1	78.9	82.3	78.1	78	80	78	77.0	67.1	80.1	69.6	67.0	70.4	55.1	68.2	71	75	63	76	65	70	71	60	56	64	
	県ー全国	4.1	4.4	4.8	3.4	3.0	2.5	2.9	2.3	2	3	2	5.0	6.2	5.6	4.3	3.7	3.0	4.1	2.4	4	3	2	3	0	1	1	2	2	0	
	全 国	81.6	73.6	77.0	75.1	75.1	76.4	79.4	75.8	76	77	76	72.0	60.9	74.5	65.3	63.3	67.4	51.0	65.8	67	72	61	73	65	69	70	58	54	64	

		数学 A											数学 B											数学							
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R3	R4	R5	R6	R7	R8	
平均正答率	富山市	75.6	68.2	68.3	70.3	66.6	66.0	71.6	68.2	65	68	71	64.7	53.6	64.1	51.6	55.4	44.3	63.6	46.3	49	51	51	65	59	55	54	56	51	58	
	市ー全国	3.7	5.1	5.6	5.7	4.5	2.3	4.2	3.8	3	3	5	4.1	4.4	7.2	8.3	6.1	2.8	3.8	4.7	5	3	4	5	2	4	3	3	3	1	
	市ー県	-1.6	-1.7	-0.1	1.6	0.1	0.2	0.5	1.1	0	0	1	-1.2	-1.6	0.5	2.1	0.8	0.4	0.0	1.8	0	1	0	0	0	0	0	0	0	-1	
	富山県	77.2	69.9	68.4	68.7	66.5	65.8	71.1	67.1	65	68	70	65.9	55.2	63.6	49.5	54.6	43.9	63.6	44.5	49	50	51	65	59	55	54	56	51	59	
	県ー全国	5.3	6.8	5.7	4.1	4.4	2.1	3.7	2.7	3	3	4	5.3	6.0	6.7	6.2	5.3	2.4	3.8	2.9	5	2	4	5	2	4	3	3	3	2	
	全 国	71.9	63.1	62.7	64.6	62.1	63.7	67.4	64.4	62	65	66	60.6	49.2	56.9	43.3	49.3	41.5	59.8	41.6	44	48	47	60	57	51	51	53	48	57	

【小学校 6 年生】

		理科				
		H24	H27	H30	R4	R7
平均正答率	富山市	66.2	67.1	65	69	61
	市－全国	5.3	6.3	5	6	4
	市－県	0.6	-0.4	1	1	-1
	富山県	65.6	67.5	64	68	62
	県－全国	4.7	6.7	4	5	5
	全 国	60.9	60.8	60	63	57

【中学校 3 年生】

		理科					理科
		H24	H27	H30	R4		R7
平均正答率	富山市	58.0	60.8	70	52	平均 I R T スコア	515～545未満
	市－全国	7.0	7.8	4	3		
	市－県	1.2	1.6	0	0		
	富山県	56.8	59.2	70	52		515～
	県－全国	5.8	6.2	4	3		
	全 国	51.0	53.0	66	49		503

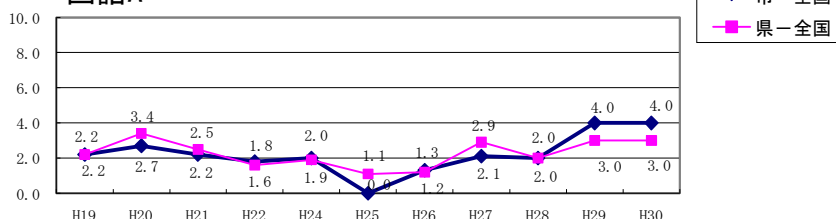
【中学校 3 年生】

		英語				英語 3 技能	
		H31	R5			R8	
平均正答率	富山市	58	48	平均 I R T スコア	495～505		
	市－全国	2	2				
	市－県	1	2				
	富山県	57	46		495～505		
	県－全国	1	0				
	全 国	56	46		499		

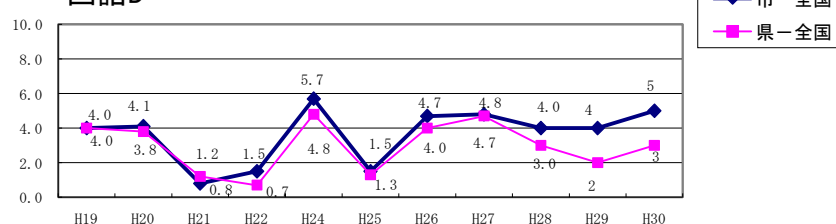
【小学校 6 年生】

※全国の平均正答率との差（％）

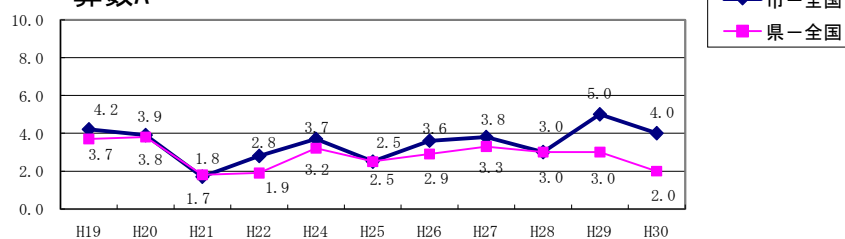
国語A



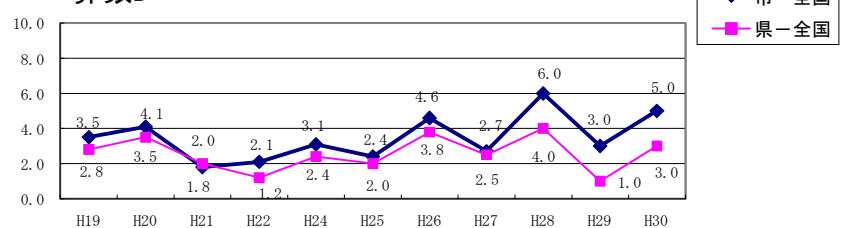
国語B



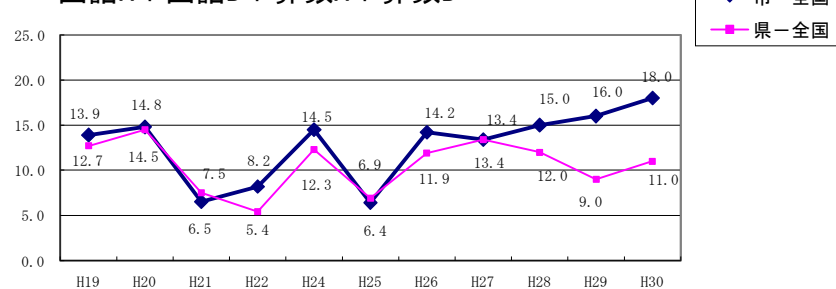
算数A



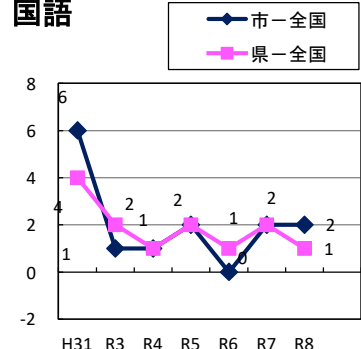
算数B



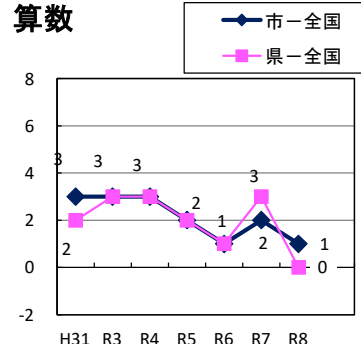
国語A+国語B+算数A+算数B



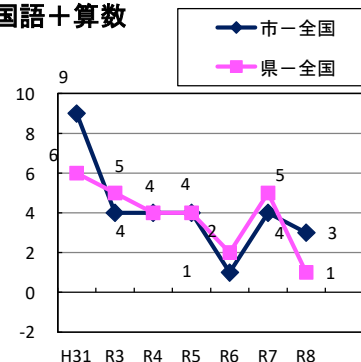
国語



算数

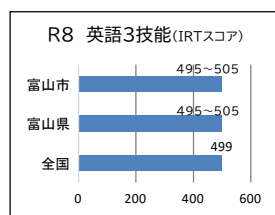
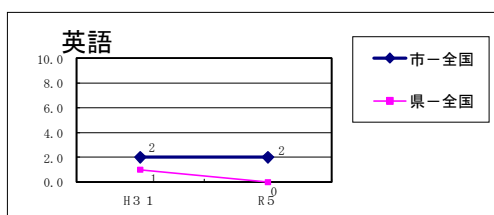
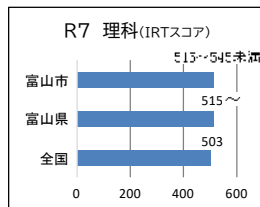
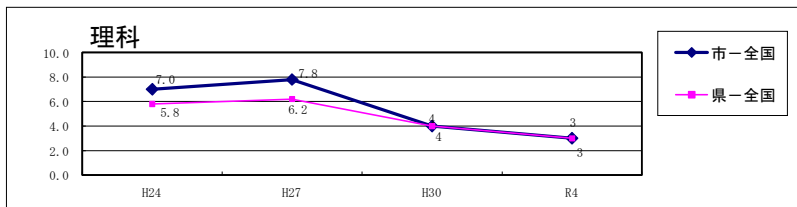
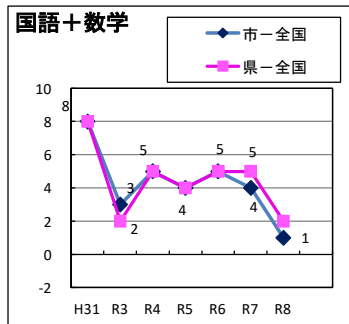
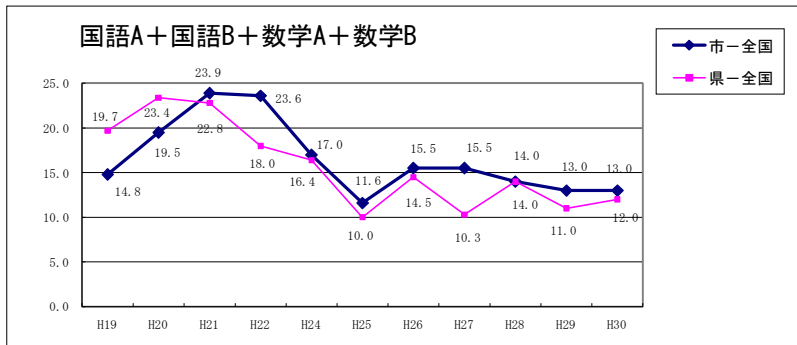
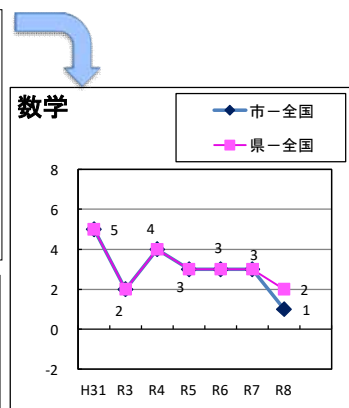
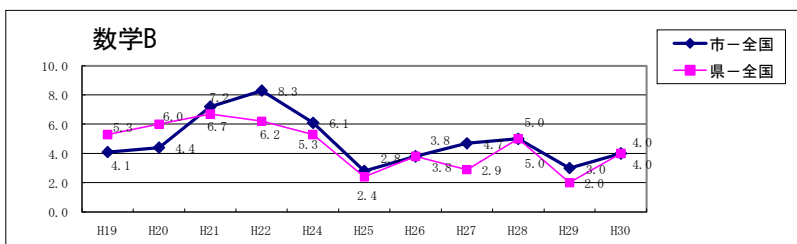
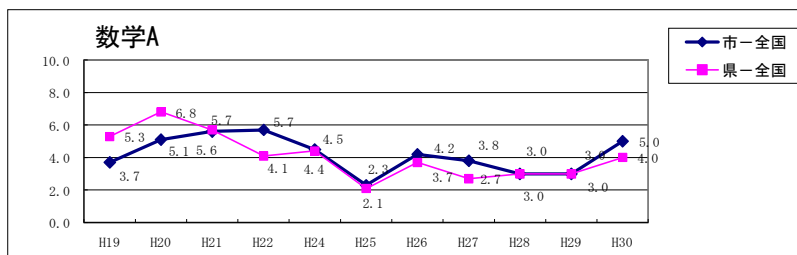
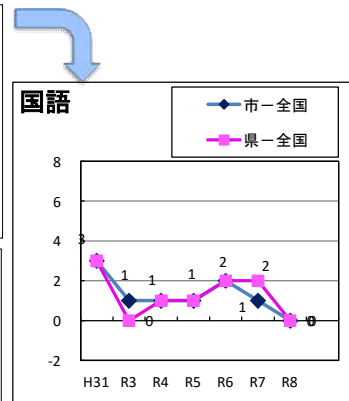
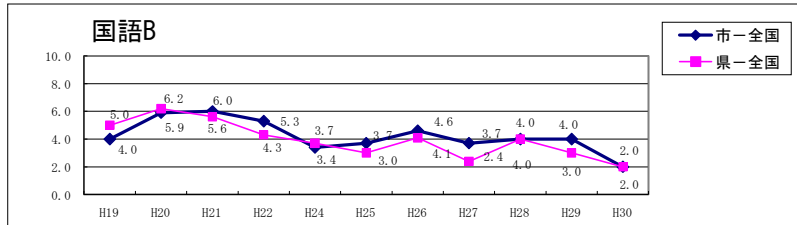
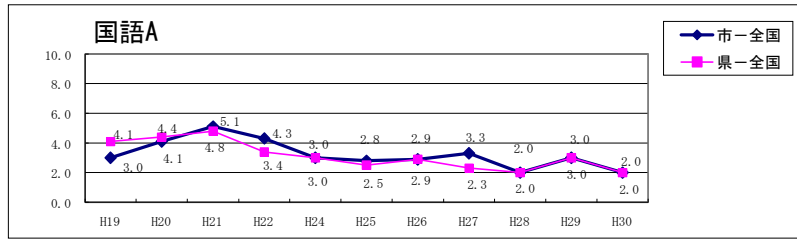


国語+算数



【中学校3年生】

※全国の平均正答率との差（％）



2 小学校6年生 設問別結果一覧

【小学校 国語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			評価の観点			問題形式				
			知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式		
			(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2)情報の扱い方に 関する事項	(3)我が国の言語文化に 関する事項								A 話すこと・聞くこと
													正答率 誤答率 無解答率
1一	【構成メモ】の工夫として適切なものを選択する	相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができるかどうかをみる				3・4 イ			○		○		富山市 78.121.40.5 全国（公立） 73.925.30.8 0%20%40%60%80%100%
1二 (1)	【動画の一部】の工夫として適切なものを選択する	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				5・6 ウ			○		○		富山市 64.834.70.5 全国（公立） 60.239.20.6 0%20%40%60%80%100%
1二 (2)	【動画の一部】の太線囲みの部分の工夫として適切なものを選択する	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				5・6 ウ			○		○		富山市 66.033.50.5 全国（公立） 63.236.10.7 0%50%100%
1二 (3)	〈音声〉の下線部の工夫の効果として適切なものを選択する	比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができるかどうかをみる	5・6 ク						○		○		富山市 69.030.50.5 全国（公立） 65.234.00.8 0%20%40%60%80%100%
2一	花山さんの文章の工夫を説明したものとして適切なものを選択する	筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる				5・6 イ			○		○		富山市 62.636.80.6 全国（公立） 57.941.30.8 0%50%100%
2二	【花山さんの文章の一部】の下線部①に続く文として適切なものを選択する	考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができるかどうかをみる	3・4 ア						○		○		富山市 53.645.50.9 全国（公立） 48.950.01.1 0%50%100%
2三ア	【花山さんの文章の一部】の下線部アを、漢字を使って書き直す(みじか-い)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6 エ						○		○		富山市 80.915.04.1 全国（公立） 80.015.94.1 0%20%40%60%80%100%
2三イ	【花山さんの文章の一部】の下線部イを、漢字を使って書き直す(ふしざ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6 エ						○		○		富山市 45.248.46.4 全国（公立） 45.248.26.6 0%20%40%60%80%100%
2四	【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる				5・6 エ			○			○	富山市 41.052.76.3 全国（公立） 33.561.35.2 0%50%100%
3一	【文章】の特徴として適切なものを選択する	話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる	5・6 カ						○		○		富山市 77.620.12.3 全国（公立） 76.721.12.2 0%50%100%
3二	傍線部①、②、③について【林さんのメモ】にどのように整理したのかを説明したものとして適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	5・6 イ						○		○		富山市 57.739.72.6 全国（公立） 55.641.92.5 0%50%100%

【小学校 国語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			評価の観点			問題形式						
			知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式				
			(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2)情報の扱い方に 関する事項	(3)我が国の言語文化に 関する事項								A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと
3三 (1)	【話し合いの様子の一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる						5・6ウ		○		○			正答率 誤答率 無解答率 富山市 54.6 41.2 4.2 全国（公立） 55.5 41.2 3.3 0% 20% 40% 60% 80% 100%
3三 (2)	【文章】を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる						5・6オ		○			○		富山市 69.0 10.3 20.7 全国（公立） 76.4 8.0 15.6 0% 20% 40% 60% 80% 100%

【小学校 算数】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率 誤答率 無解答率
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	
1(1)	一辺が8cmの立方体の体積を求める式を書く	立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる		5(4) ア(イ)				○				○		富山市 64.4 33.9 1.7 全国（公立） 72.7 26.0 1.3
1(2)	直方体の箱の形の六つの面のうち、四つの面が示されたとき、残りの二つの面の縦と横の長さを書く	直方体の箱の形を構成する面について理解しているかどうかをみる		2(1) ア(ウ) 4(2) ア(ア)				○				○		富山市 66.1 31.4 2.5 全国（公立） 63.0 35.3 1.7
1(3)	1立方センチメートルの立方体を36個使ってできた直方体の体積を書く	体積の意味について理解しているかどうかをみる		5(4) ア(ア)				○				○		富山市 39.7 55.2 5.1 全国（公立） 40.1 55.7 4.2
1(4)	四つの箱のまとめ方によって宅配便の送料に違いがあるかを調べるために、直方体イの送料の求め方とその答えを書く	日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	2(2) ア(ア)	4(2) ア(ア) ※			3(1) ア(ア)		○				○	富山市 49.8 42.5 7.7 全国（公立） 45.2 49.0 5.8
2(1)	74291の百の位の数を四捨五入して、千の位までの概数で表したものを選ぶ	数を四捨五入して、概数で表すことができるかどうかをみる	4(2) ア(イ)					○				○		富山市 66.2 32.6 1.2 全国（公立） 66.5 32.5 1.0
2(2)	インガメ14匹が動物園全体のカメの数の20%に当たるときの、動物園全体のカメの数を求める式と答えを書く	百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることができるかどうかをみる				5(3) ア(イ)		○				○		富山市 53.0 38.9 8.1 全国（公立） 53.1 39.7 7.2
2(3)	ペンギンがいる二つの広場の混み具合を求める式の意味について、正しいものを選ぶ	単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかどうかをみる				5(2) イ(ア)			○			○		富山市 37.6 60.8 1.6 全国（公立） 36.1 62.3 1.6
2(4)	赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図を二つ選ぶ	基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる	4(4) ア(ア)			5(3) ア(ア)		○				○		富山市 36.3 62.3 1.4 全国（公立） 34.2 64.3 1.5
3(1)	1、5、9の3枚のカードを当てはめてつくることができる最も大きい数を書く	小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかをみる	4(4) ア(イ)					○				○		富山市 95.3 3.7 1.0 全国（公立） 94.5 4.5 1.0
3(2)	二つの小数のどちらが5に近いかを判断するために、6.37－5と5－3.76を計算する	整数と小数の減法の計算をすることができかどうかをみる	4(4) ア(ウ)					○				○		富山市 60.3 37.2 2.5 全国（公立） 58.1 39.7 2.2

※ 本設問においては、思考力、判断力、表現力等をみるために用いる知識及び技能を示している。

【小学校 算数】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	態度・主体的に学習に取り組む	選択式	短答式	記述式	
														正答率 誤答率 無解答率
3(3)	7/3と7/4のどちらの方が大きいかを判断し、そのわけを書く	異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	4(5) ア(ア) イ(ア) 5(4) ア(ア) ア(エ) イ(ア)						○				○	富山市 43.2 53.2 3.6 全国（公立） 44.0 52.8 3.2 0% 20% 40% 60% 80% 100%
3(4)	5/3を表す目盛りが示された数直線上で、1を表す目盛りを選ぶ	単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉えることができるかどうかをみる	3(6) ア(ア) ア(イ)					○			○			富山市 66.6 30.5 2.9 全国（公立） 68.1 29.2 2.7 0% 20% 40% 60% 80% 100%
4(1)	全員分のアンケートが整理されていない学級を見付け、その根拠となる人数を表1と表2の中から書く	示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述できるかどうかをみる					3(1) ア(ア) ※		○				○	富山市 55.5 39.7 4.8 全国（公立） 56.2 40.1 3.7 0% 20% 40% 60% 80% 100%
4(2)	昔遊びの計画を見て、全体で使える時間の中で、「前半」に使える時間は何分間かを書く	示された情報を基に、数量の関係を着目して、条件に合う時間を求めることができるかどうかをみる	2(2) ア(ア) 5(4) ア(ア)		3(2) ア(イ)			○				○		富山市 80.5 15.2 4.3 全国（公立） 78.1 18.5 3.4 0% 20% 40% 60% 80% 100%
4(3)	二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数を書く	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる					4(1) ア(ア)	○				○		富山市 19.6 75.9 4.5 全国（公立） 17.9 78.2 3.9 0% 20% 40% 60% 80% 100%
4(4)	帯グラフから、「いっしょに話ができたこと」の割合が約何%かを選ぶ	帯グラフの特徴と使い方を理解し、およその割合を読み取ることができるかどうかをみる					5(1) ア(ア)	○			○			富山市 74.4 15.9 9.7 全国（公立） 74.9 18.2 6.9 0% 20% 40% 60% 80% 100%

3 中学校3年生 設問別結果一覧

【中学校 国語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点			問題形式			正答率 誤答率 無解答率	
			知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式		
			(1)言葉の特色や使い方に 関する事項	(2)情報の扱い方に 関する事項	(3)我が国の言語文化に 関する事項								A 話すこと・聞くこと
1一	「可能な意味」を含んでいるものとして適切なものを選択する	助動詞の働きについて理解しているかどうかをみる	2オ					○			○		富山市 84.1 15.6 0.3 全国（公立） 84.3 15.5 0.2
1二	「投げられる」を説明したものとして適切なものを選択する	単語の類別について理解しているかどうかをみる	1エ					○			○		富山市 69.6 30.0 0.4 全国（公立） 70.2 29.5 0.3
1三	「ら抜き言葉」であるものを選択する	単語の活用について理解しているかどうかをみる	2オ					○			○		富山市 84.9 14.9 0.2 全国（公立） 85.4 14.4 0.2
2一	発言について説明したものとして適切なものを選択する	目的や場面に応じて、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる				1ア		○			○		富山市 68.2 31.2 0.6 全国（公立） 68.5 31.2 0.3
2二	話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる				1エ		○			○		富山市 69.1 30.3 0.6 全国（公立） 70.4 29.3 0.3
2三	話し合いを受けて整理したタブレット端末の画面を説明したものとして適切なものを選択する	情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができるかどうかをみる		2イ				○			○		富山市 71.4 28.0 0.6 全国（公立） 70.4 29.2 0.4
2四	話し合いを受けてどのような意見を述べるか、自分の考えを書く	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる				2オ		○				○	富山市 55.1 27.4 17.5 全国（公立） 52.7 32.6 14.7
3一	文書作成ソフトに表示された意味と用例を参考にして、漢字を書き、漢字の組合せとして適切なものを選択する(とる)	文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるかどうかをみる	2ウエ					○			○		富山市 40.2 59.4 0.4 全国（公立） 39.8 59.9 0.3
3二	気持ちがより伝わるように、表現を工夫して書く	表現の効果を考えて描写することができるかどうかをみる					2ウ	○			○		富山市 91.9 2.9 5.2 全国（公立） 92.3 2.9 4.8

【中学校 国語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点			問題形式						
			知識及び技能	思考力・判断力・表現力等		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式		記述式			
			(1)言葉の特性や使い方に 関する事項	(2)情報の扱い方に 関する事項	(3)我が国の言語文化に 関する事項								A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと
3三	文章の展開の意図を説明したものとして適切なものを選択する	段落相互の関係を明確にし、文章の展開を工夫することができるかどうかをみる					2イ		○		○				正答率 誤答率 無解答率 富山市 64.7 34.6 0.7 全国（公立） 65.0 34.5 0.5 0% 20% 40% 60% 80% 100%
3四	書いた文章について、交流を基にして、「この文章のよい点や改善点」と「今後随筆を書くときに生かしたいこと」を書く	表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる					2オ		○			○			富山市 44.5 42.9 12.6 全国（公立） 45.0 44.3 10.7 0% 20% 40% 60% 80% 100%
4一	文章全体を三つに分けて整理したものとして適切なものを選択する	文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉えることができるかどうかをみる						1ア	○		○				富山市 71.9 27.1 1.0 全国（公立） 71.6 27.7 0.7 0% 20% 40% 60% 80% 100%
4二	国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す	語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる	1ウ						○			○			富山市 32.3 46.0 21.7 全国（公立） 35.2 45.0 19.8 0% 20% 40% 60% 80% 100%
4三	文章中に書かれている、会話の表情を表す擬音語・擬態語の特徴をまとめたものとして適切なものを選択する	目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるかどうかをみる						1ウ	○		○				富山市 68.8 29.8 1.4 全国（公立） 68.7 30.2 1.1 0% 20% 40% 60% 80% 100%
4四	二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く	文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えを確かめることができるかどうかをみる						1オ	○			○			富山市 38.4 39.0 22.6 全国（公立） 38.9 42.5 18.6 0% 20% 40% 60% 80% 100%

【中学校 数学】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	
													正答率 誤答率 無解答率
1	2月3日のA市の最高気温が最低気温より何℃高くなったかを書く	具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができるかどうかをみる	1(1) ア(ツ)										富山市 86.9 12.4 0.7 全国（公立） 85.7 13.7 0.6
2	$7x+9-5x+7x-2+2x$ から、 $7x$ の同類項をすべて書く	同類項の意味を理解しているかどうかをみる	2(1) ア(ア)										富山市 71.5 26.1 2.4 全国（公立） 70.5 27.3 2.2
3	四角形PQRSにおいて、PS平行QRを示すための根拠となる二つの角を書く	2直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる		2(1) ア(ア)									富山市 50.3 46.5 3.2 全国（公立） 49.1 48.1 2.8
4	反比例の表において、 x の値が -3 のときの y の値を求める	反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、 x の値に対応する y の値を求めることができるかどうかをみる			1(1) ア(イ)								富山市 59.9 39.0 1.1 全国（公立） 55.3 43.6 1.1
5	大小二つのさいころを同時に投げるとき、大きいさいころの目が6で小さいさいころの目が1である確率を求める	起こり得る場合を樹形図や二次元の表を利用するなどして整理し、確率を求めることができるかどうかをみる				2(2) ア(イ)							富山市 60.5 34.2 5.3 全国（公立） 60.2 35.0 4.8
6(1)	選んだ2数が3と6のときについて、陸斗さんの予想が成り立つことを示す式を書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えているかどうかをみる	2(1) ア(エ)										富山市 73.6 18.9 7.5 全国（公立） 73.2 20.2 6.6
6(2)	陸斗さんの予想がいつでも成り立つことを説明するための方針を完成するために、当てはまるものを選ぶ	事柄が成り立つ理由を文字を使って説明するための方針を立てることができるかどうかをみる	2(1) ア(ウ)										富山市 65.0 34.1 0.9 全国（公立） 65.0 34.4 0.6
6(3)	手順にしたがってできたAとBについて、 $A-B$ の値がどんな数になるかを、選んだ2数の差に着目して説明する	統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる			2(1) イ(イ)								富山市 43.0 26.1 30.9 全国（公立） 44.6 28.9 26.5
7(1)	動画の時間とデータ量の関係を表すグラフにおいて、点Cの座標を書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる			1(1) ア(ウ)								富山市 76.1 16.7 7.2 全国（公立） 75.2 19.2 5.6

【中学校 数学】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	
													正答率 誤答率 無解答率
7(2)	データ量が1000MBになるときの動画の時間がおおよそ何秒になるかを求める方法を説明する	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる			1(1) イ(イ)			○				○	富山市 31.5 24.6 43.9 全国（公立） 33.9 26.5 39.6 0% 20% 40% 60% 80% 100%
8(1)	$\angle AOB$ の大きさが a° のとき、 $\angle POB$ の大きさを a を用いた式で書く	具体的な事象において、考察の対象となる角を的確に捉えることができるかどうかをみる		1(1) ア(ア)				○				○	富山市 62.9 27.3 9.8 全国（公立） 62.5 28.5 9.0 0% 20% 40% 60% 80% 100%
8(2)	図1において、 $AB=AP$ 、 $OB=OP$ ならば $\angle AOB=\angle AOP$ であることを、三角形の合同を基にして証明する	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる		2(2) イ(イ)				○				○	富山市 49.6 26.8 23.6 全国（公立） 46.1 31.7 22.2 0% 20% 40% 60% 80% 100%
8(3)	図2において、証明する事柄における仮定となる辺や角の関係を選ぶ	具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだすことができるかどうかをみる		2(2) ア(イ)				○				○	富山市 40.7 57.9 1.4 全国（公立） 37.1 61.9 1.0 0% 20% 40% 60% 80% 100%
9(1)	全校生徒の睡眠時間の度数分布表において、最小の階級から6時間以上7時間未満の階級までの累積度数を求める	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる				1(1) ア(ア)		○				○	富山市 51.2 35.5 13.3 全国（公立） 46.0 39.7 14.3 0% 20% 40% 60% 80% 100%
9(2)	学年別の睡眠時間について、学年別睡眠時間の箱ひげ図から読み取れることとして正しいものを選ぶ	箱ひげ図と四分位数の対応について理解しているかどうかをみる				2(1) ア(ア)		○				○	富山市 77.3 21.7 1.0 全国（公立） 75.8 23.5 0.7 0% 20% 40% 60% 80% 100%
9(3)	「就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張できる理由を、悠真さんが調べたことの二つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる				1(1) イ(ア)		○				○	富山市 33.1 33.9 33.0 全国（公立） 31.9 39.2 28.9 0% 20% 40% 60% 80% 100%

【中学校 英語】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			
			(1) 聞くこと	(2) 読むこと	(3) 話すこと「やり取り」	(4) 話すこと「発表」	(5) 書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式／口述式	記述式／口述式	
														正答率 誤答率 無解答率
1	注文の場面での店員と客の会話を聞き、客が注文したものをを選択する	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	○※					○			○			富山市 60.0 39.7 0.3 全国（公立） 60.2 39.6 0.2
2	ショッピングセンターでのアナウンスを聞き、行くべき階を選択する	日常的话题について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア					○			○			富山市 74.6 25.4 0.0 全国（公立） 78.5 21.4 0.1
3	学校見学についての説明を聞き、行くべき場所を選択する	日常的话题について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア					○			○			富山市 73.0 26.8 0.2 全国（公立） 76.0 23.9 0.1
4	職場体験についての発表を聞き、その後示される3枚の絵を体験した順になるように選択する	日常的话题について、話を聞き、概要を捉えることができるかどうかをみる	イ					○			○			富山市 42.5 56.9 0.6 全国（公立） 43.8 55.9 0.3
5	住みやすいまちづくりについての発表を聞き、話し手が最も伝えたいことを選択する	社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えることができるかどうかをみる	ウ					○			○			富山市 55.9 43.8 0.3 全国（公立） 55.6 44.2 0.2
6	文章を読み、グラフの空所に入る学校行事を選択する	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	○※					○			○			富山市 65.0 33.8 1.2 全国（公立） 67.3 31.6 1.1
7	誕生日パーティーに関するメールを読み、最も適切な時刻を選択する	日常的话题について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	ア					○			○			富山市 73.9 25.9 0.2 全国（公立） 72.4 27.5 0.1
8	友達からのメッセージを読み、相手が示した条件に合うウェブサイトを選択する	日常的话题について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	ア					○			○			富山市 60.0 39.6 0.4 全国（公立） 63.8 36.1 0.1

※「学習指導要領の領域」における「○」は、五つの領域別の目標に分類されない「知識及び技能」を示している。

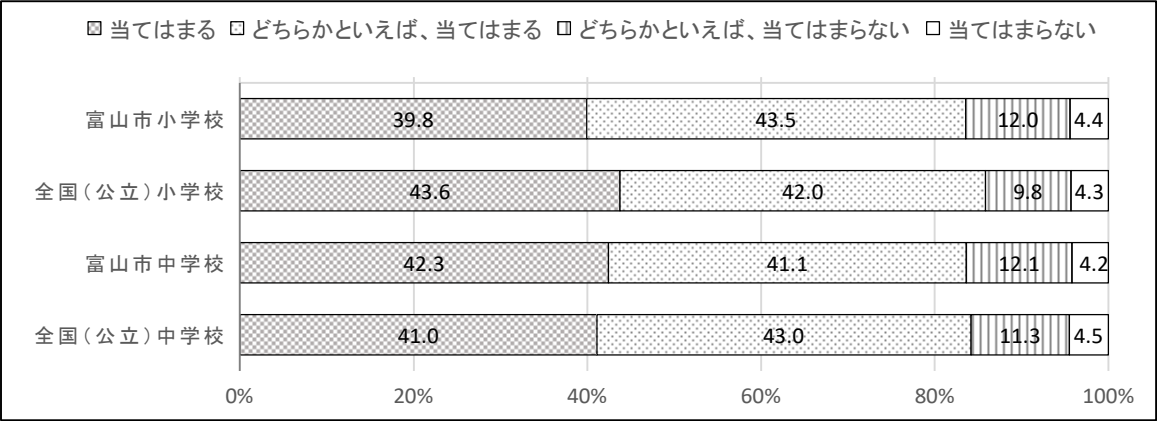
【中学校 英語】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			
			(1) 聞くこと	(2) 読むこと	(3) 話すこと「やり取り」	(4) 話すこと「発表」	(5) 書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式／口述式	記述式／口述式	
														正答率 誤答率 無解答率
9	物語を読み、物語全体を通した登場人物の気持ちの変化を表したものを選択する	日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることができるかどうかをみる		イ					○		○			富山市 47.9 52.0 0.1 全国（公立） 49.0 50.9 0.1 0% 20% 40% 60% 80% 100%
10(1)	インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいことを選択する	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる		ウ					○		○			富山市 44.2 55.4 0.4 全国（公立） 47.5 52.3 0.2 0% 20% 40% 60% 80% 100%
10(2)	インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる					ウ		○			○		富山市 27.9 55.0 17.1 全国（公立） 27.8 57.6 14.6 0% 20% 40% 60% 80% 100%
11①	与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる					ア		○			○		富山市 57.7 39.1 3.2 全国（公立） 58.9 38.6 2.5 0% 20% 40% 60% 80% 100%
11②	与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる					ア		○			○		富山市 50.5 46.1 3.4 全国（公立） 52.7 44.3 3.0 0% 20% 40% 60% 80% 100%
12	中学生になってからの思い出を1つ取り上げ、そこで体験したことと感想を書く	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる					イ		○			○		富山市 50.6 39.3 10.1 全国（公立） 47.5 43.8 8.7 0% 20% 40% 60% 80% 100%
13	留学生との交流会で一緒にしたいことを1つ取り上げ、その理由を書く	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる					イ		○			○		富山市 47.6 41.5 10.9 全国（公立） 44.0 46.7 9.3 0% 20% 40% 60% 80% 100%
14	学校で普段行うことを1つ取り上げ、それについての説明を書く	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる					イ		○			○		富山市 27.0 55.8 17.2 全国（公立） 27.8 58.0 14.2 0% 20% 40% 60% 80% 100%

4 児童生徒質問調査 (◎のついた質問は、今年度新しく掲載した質問)
 ※ その他・無回答は、データに含んでいない。

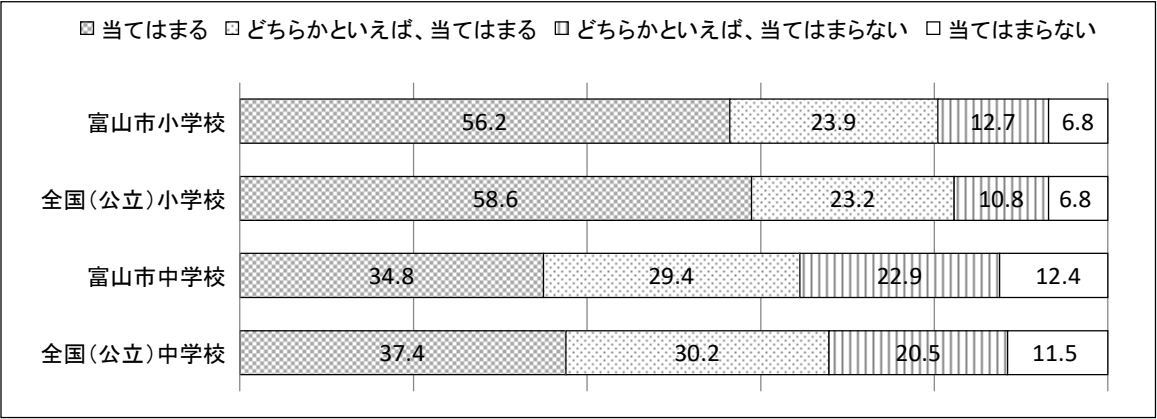
【自尊感情】

1 自分には、よいところがあると思う。



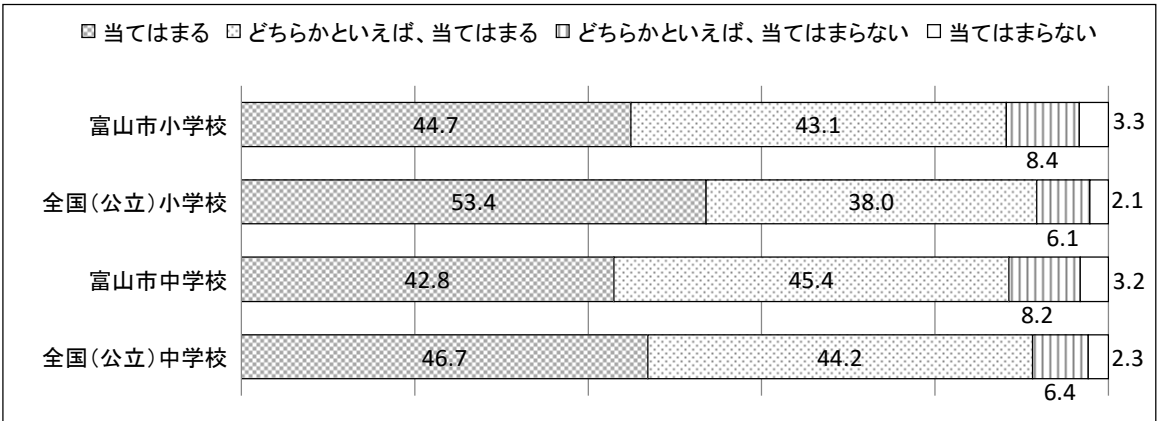
※ 「自分にはよいところがあると思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

2 将来の夢や目標を持っている。



※ 「将来の夢や目標を持っている」「どちらかといえば、持っている」児童の割合は全国とほぼ同じであり、生徒の割合は全国よりやや低い。

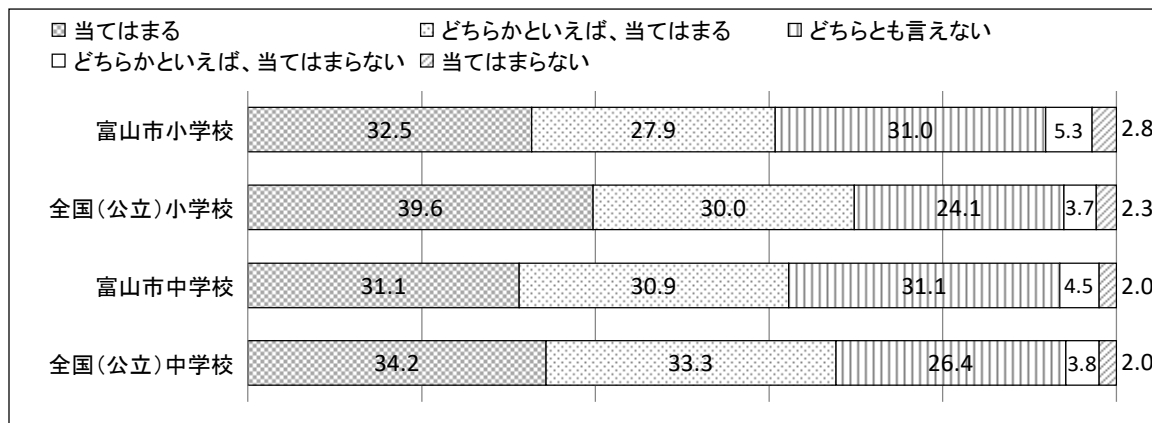
3 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。



※ 「先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は全国よりやや低い。

【規範意識】

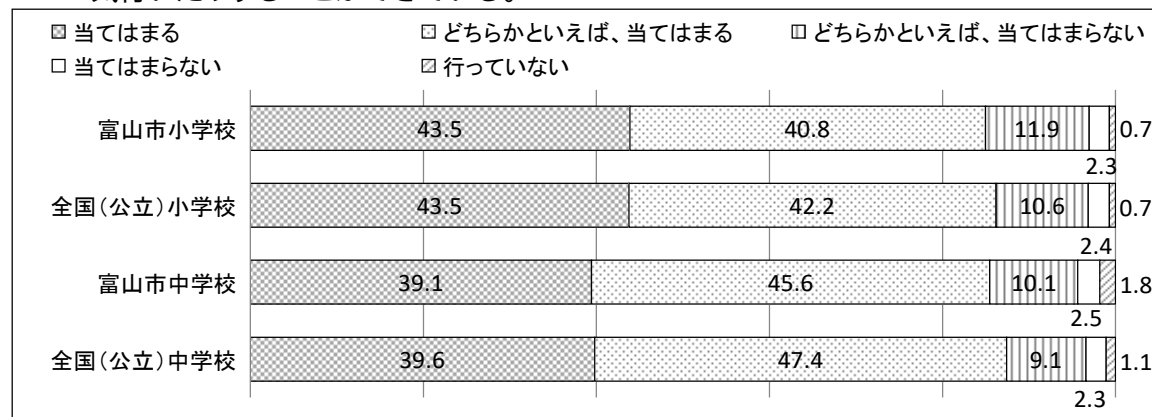
4 ◎ あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う。



※ 「自分の学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は全国より低い。

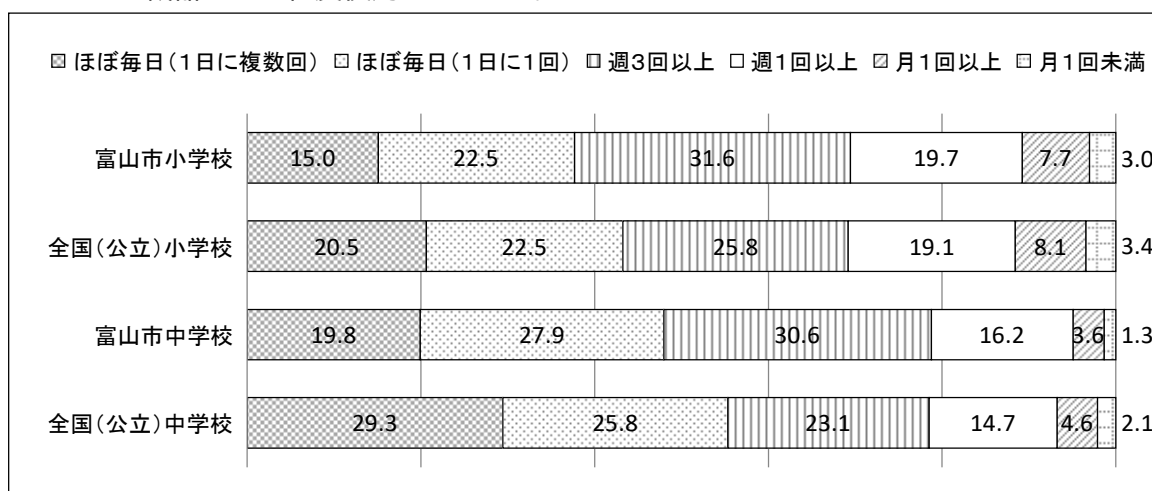
【授業での活動】

5 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。



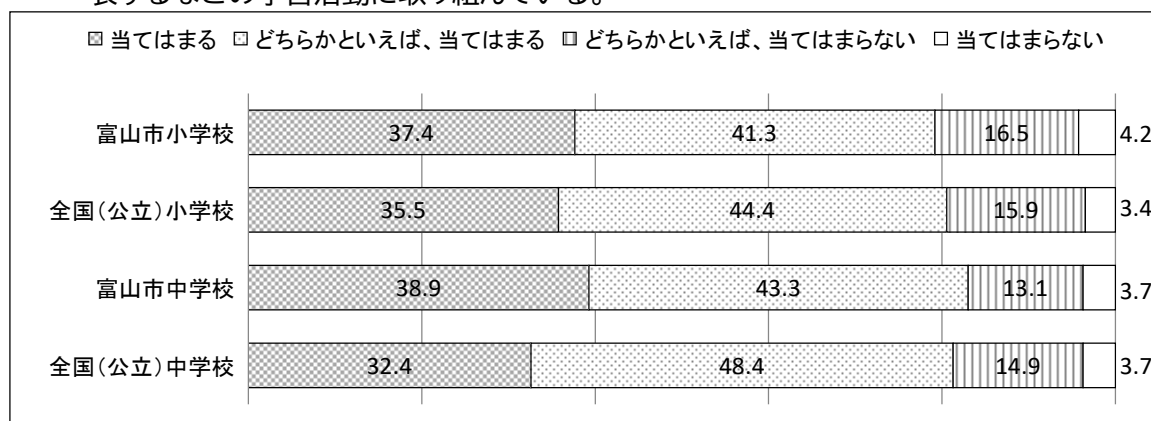
※ 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていたと思う」「どちらかといえば思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

6 小学校5年生(中学生は1、2年生のとき)までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。



※ 「小学校5年生(中学生は1、2年生のとき)までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用している」児童の割合は全国よりやや高く、生徒の割合は全国と同じである。

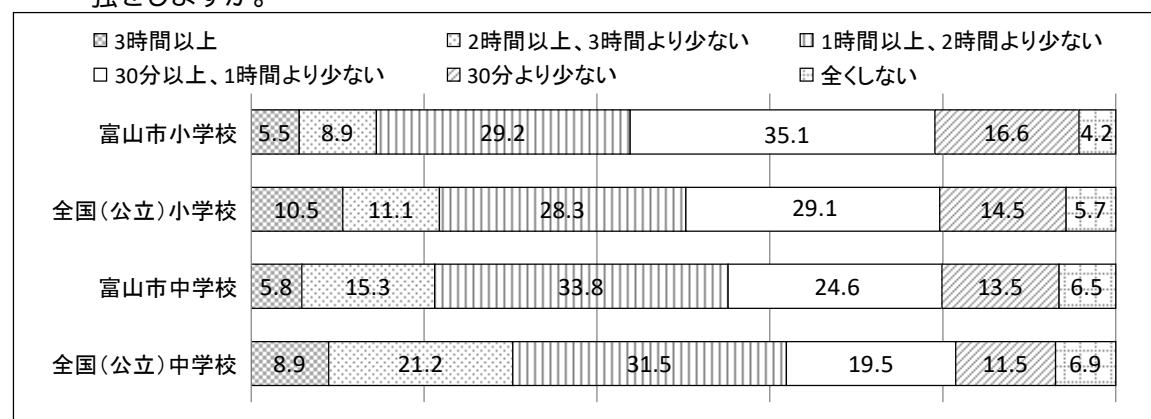
7 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。



※ 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいると思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

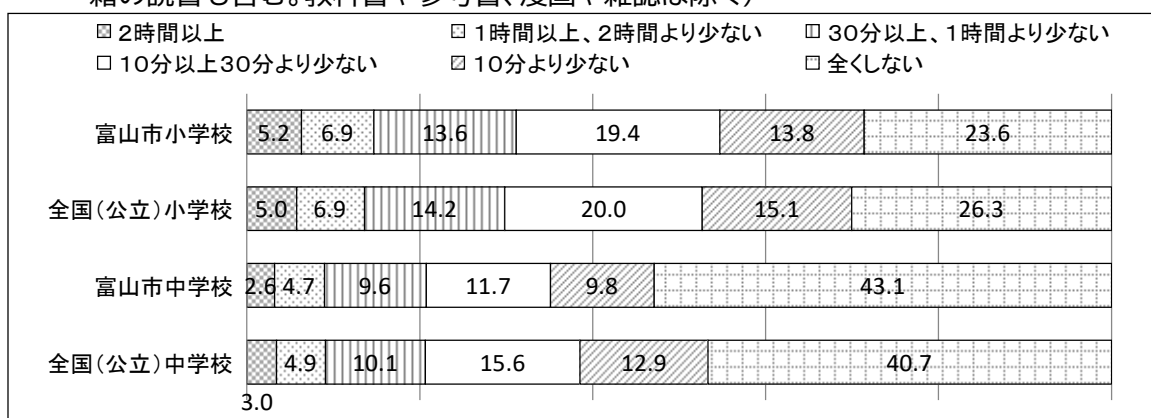
【家庭学習】

8 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



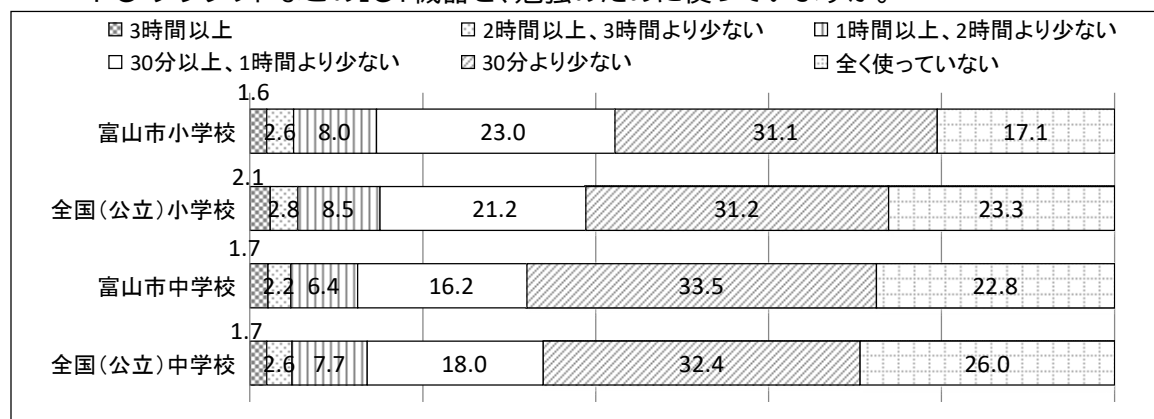
※ 「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1時間以上勉強をしている」児童生徒の割合は全国より低い。

9 学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)



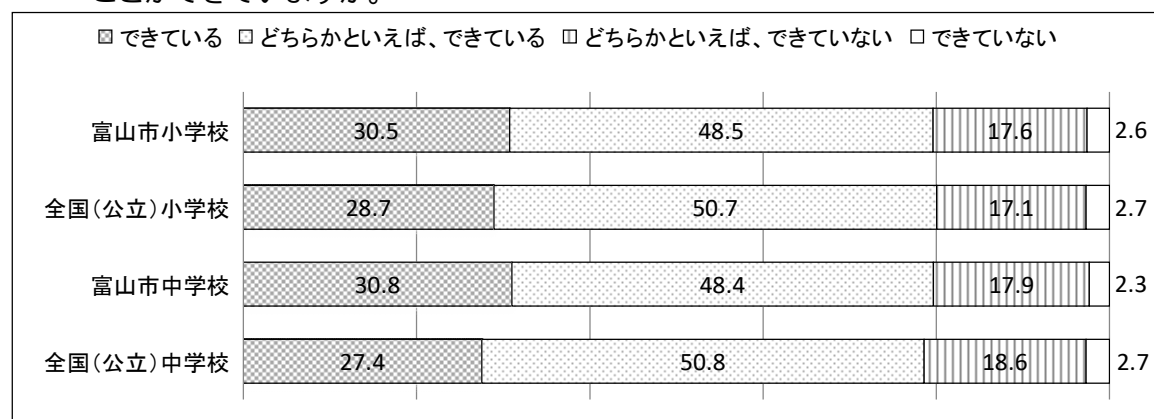
※ 「学校の授業時間以外に、普段、1日当たり30分以上読書をしている」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

10 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。



※ 「普段(月～金曜日)、1日当たり30分以上PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っている」児童の割合は全国とほぼ同じであり、生徒の割合は全国よりやや低い。

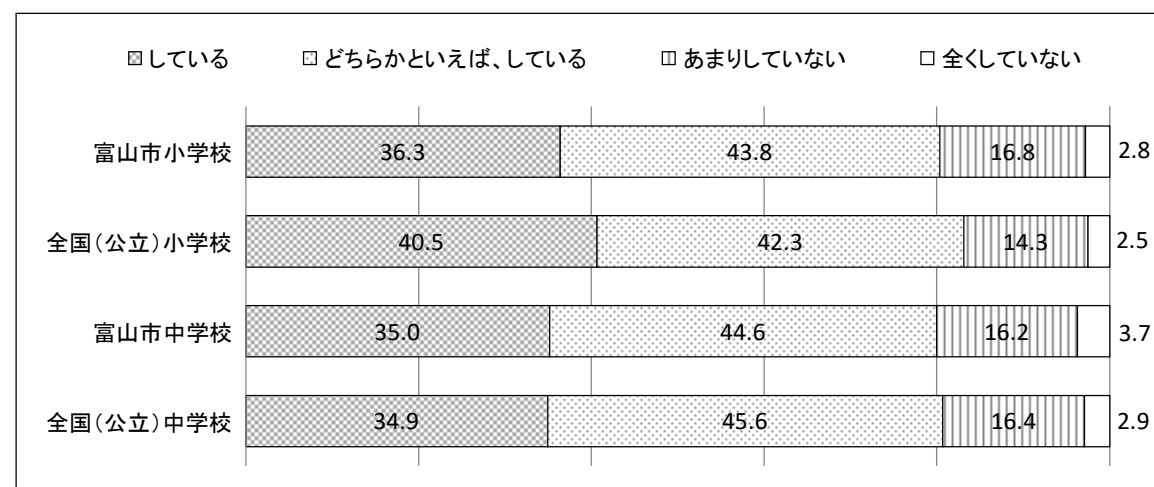
11 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか。



※ 「自分で学び方を考え、工夫することができている」「どちらかといえば、できている」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

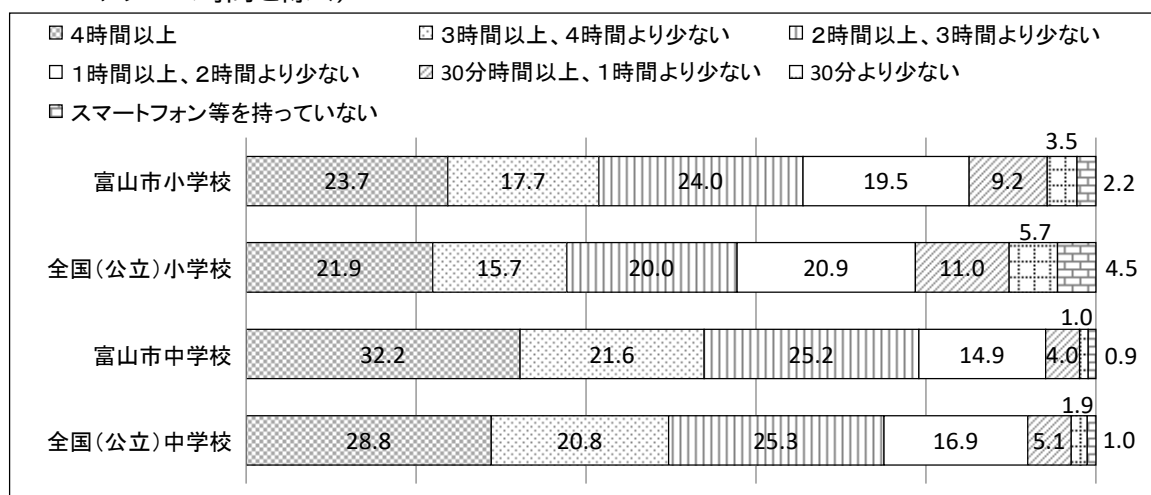
【家庭での生活】

12 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。



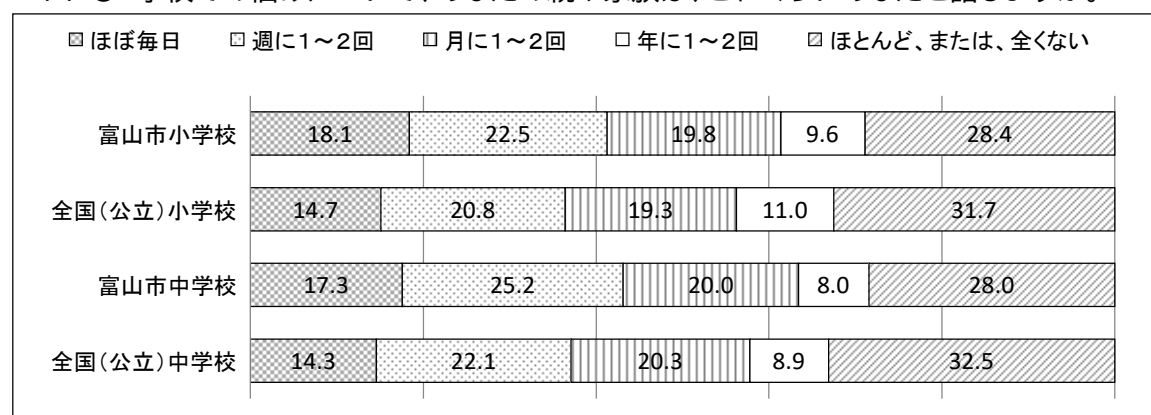
※ 「同じ時刻に寝ている」「どちらかといえば、寝ている」児童の割合は全国よりやや低く、生徒の割合は全国とほぼ同じである。

13 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等でSNSや動画視聴などをしますか。(学習時間やゲーム時間を除く)



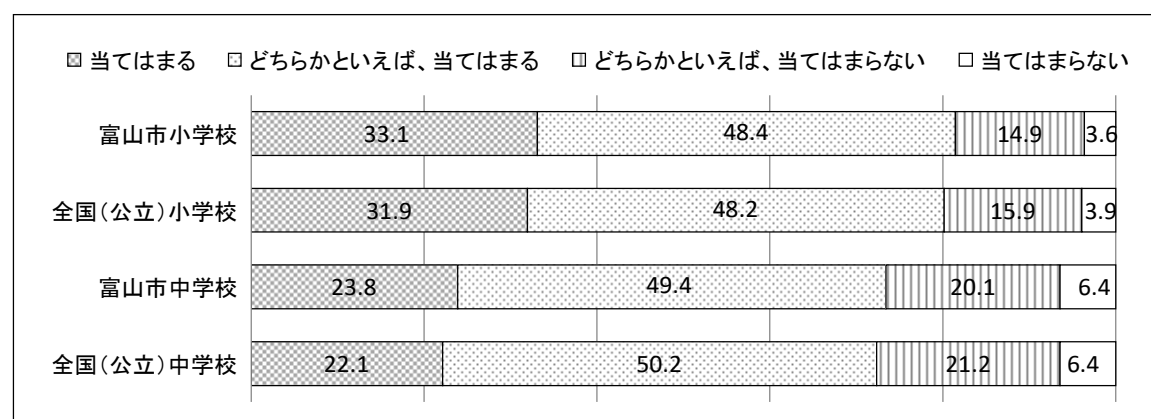
※ 「普段(月曜日から金曜日)、1日当たり2時間以上、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等でSNSや動画視聴などを行っている」児童の割合は全国より高く、生徒の割合は全国よりやや高い。

14 ◎ 学校での悩みについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか。



※ 「学校での悩みについて、自分の親や家族は、月に1～2回以上自分と話している」児童生徒の割合は全国より高い。

15 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。

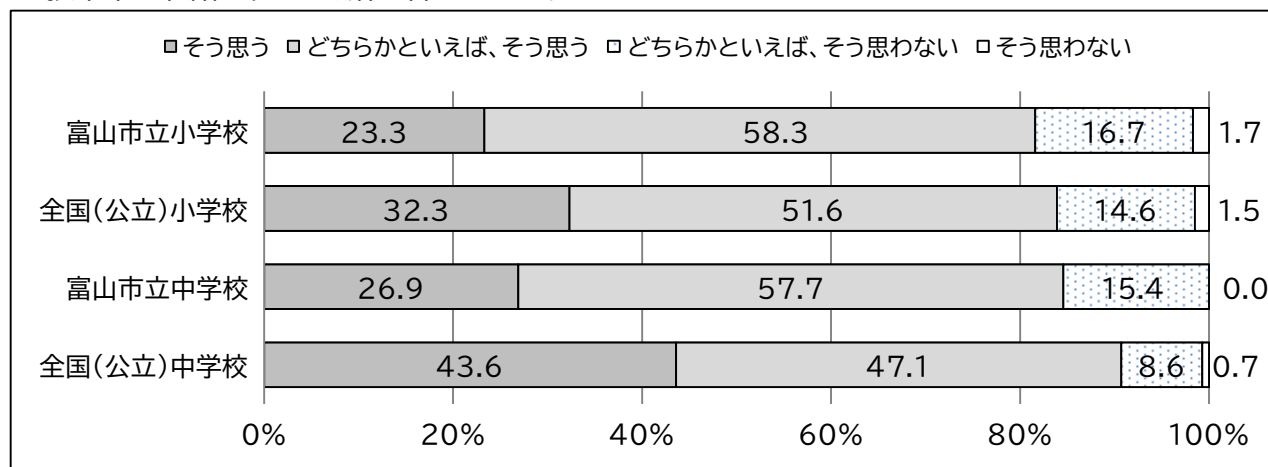


※ 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

5 学校質問調査 (◎のついた質問は、今年度新しく掲載した質問)
※ その他・無回答は、データに含んでいない。

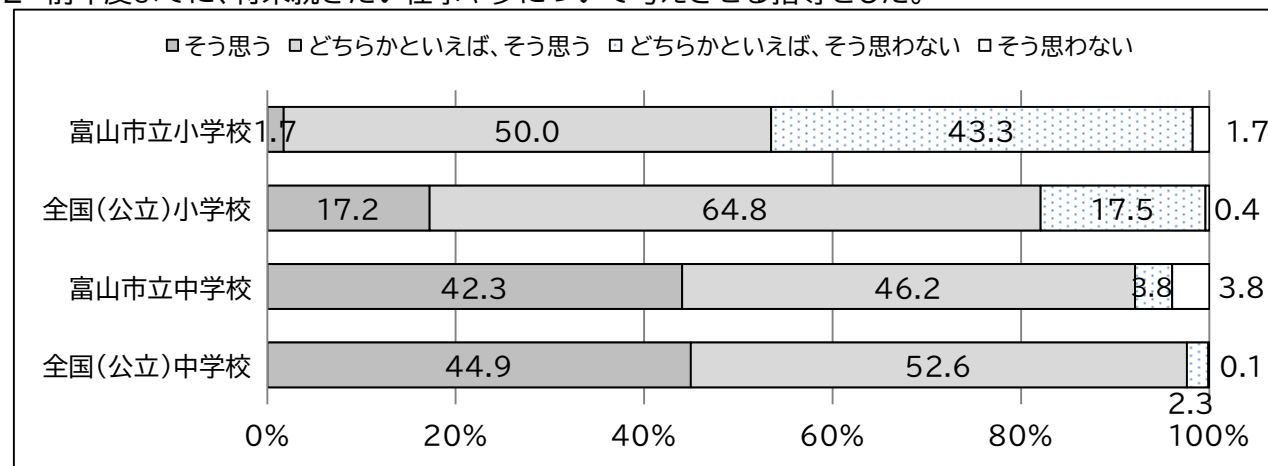
【児童・生徒指導等】

1 授業中の私語が少なく、落ち着いている。



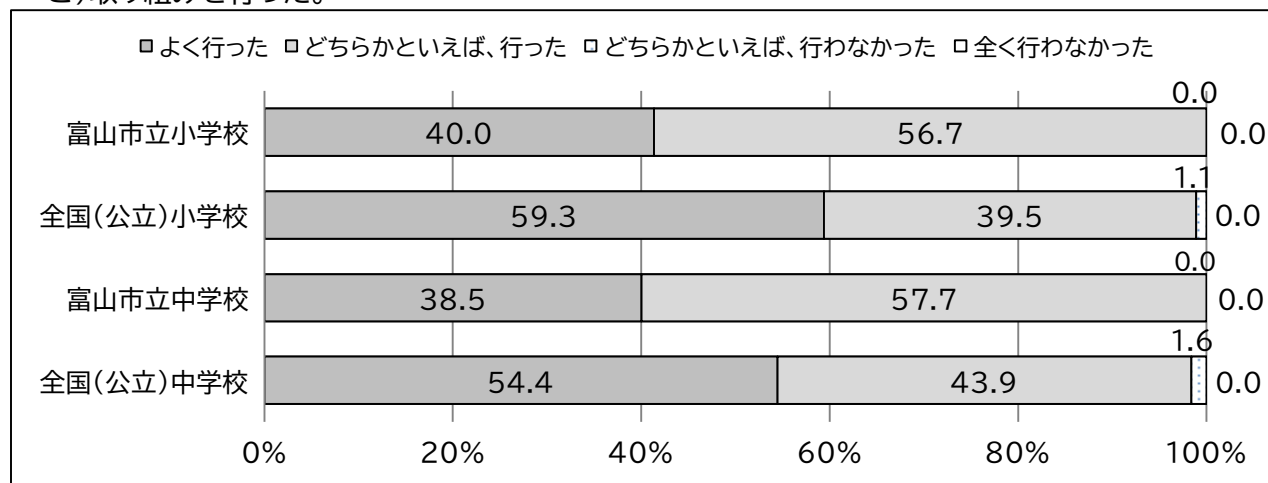
※ 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」学校の割合は、小学校は全国とほぼ同じで、中学校は全国より低い。

2 前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした。



※ 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」学校の割合は、小学校は全国よりかなり低く、中学校は全国より低い。

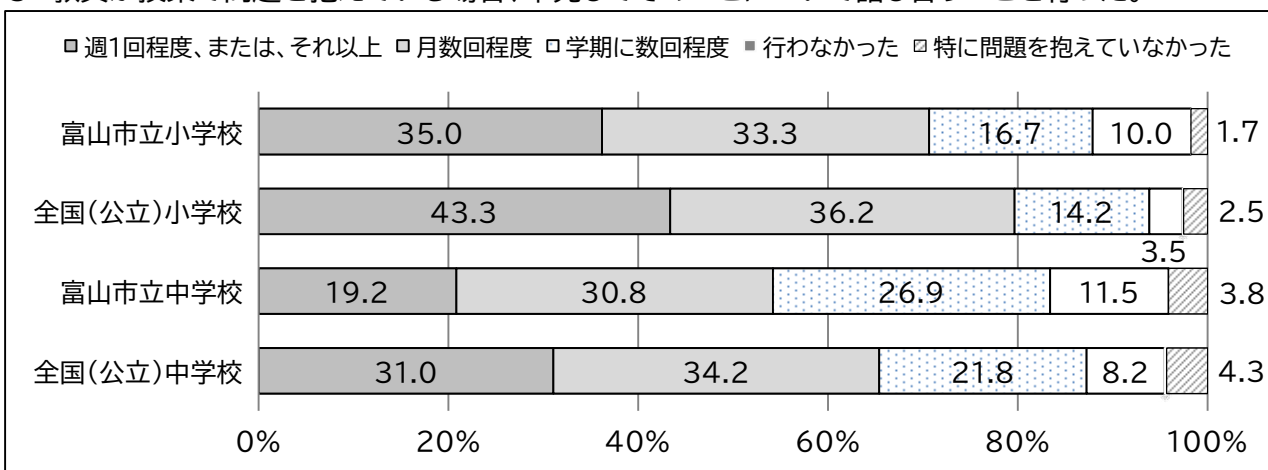
3 前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取り組みを行った。



※ 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」学校の割合は、小学校は全国よりかなり低く、中学校は全国より低い。

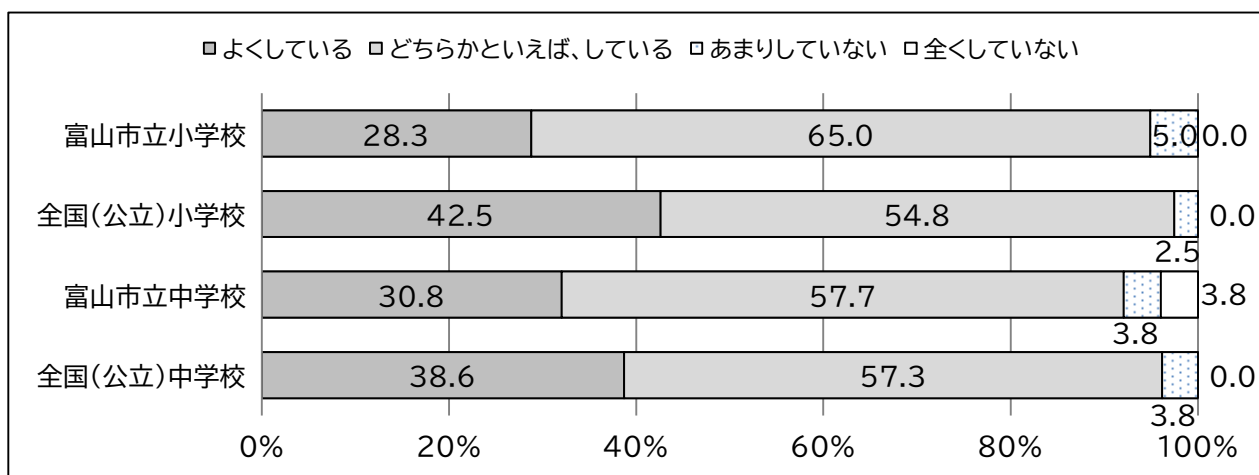
【学校運営に関する状況】

3 教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行った。



※ 「週1回程度、または、それ以上行った」「月数回程度行った」学校の割合は、小・中学校ともに、全国よりかなり低い。

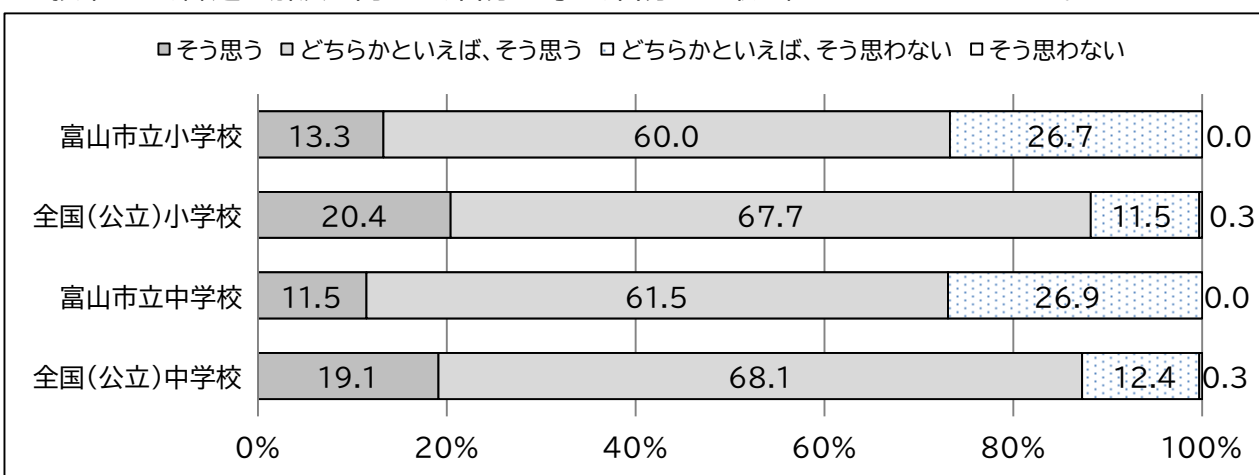
4 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、小学校は全国よりやや低く、中学校は全国より低い。

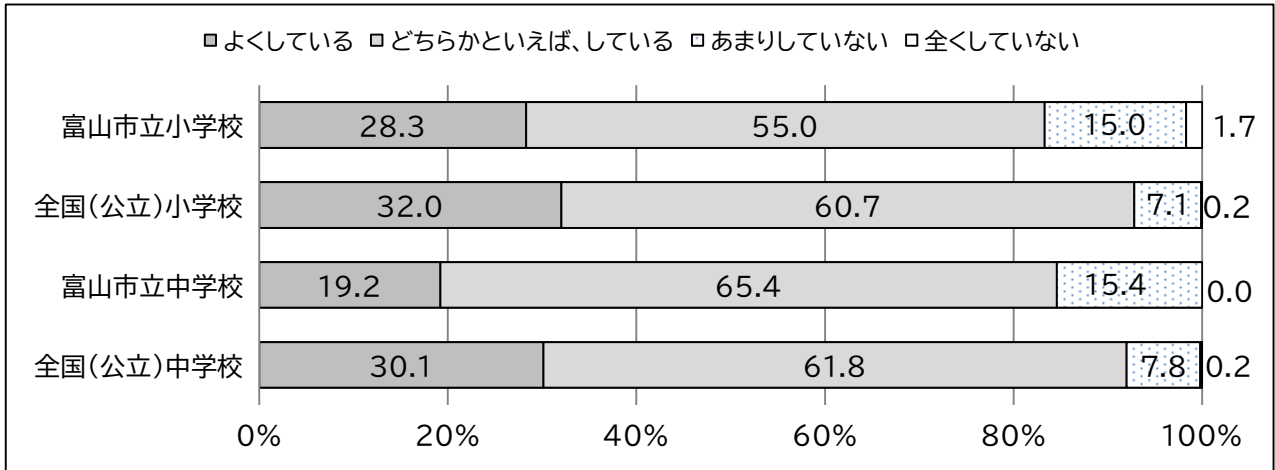
【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

5 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる。



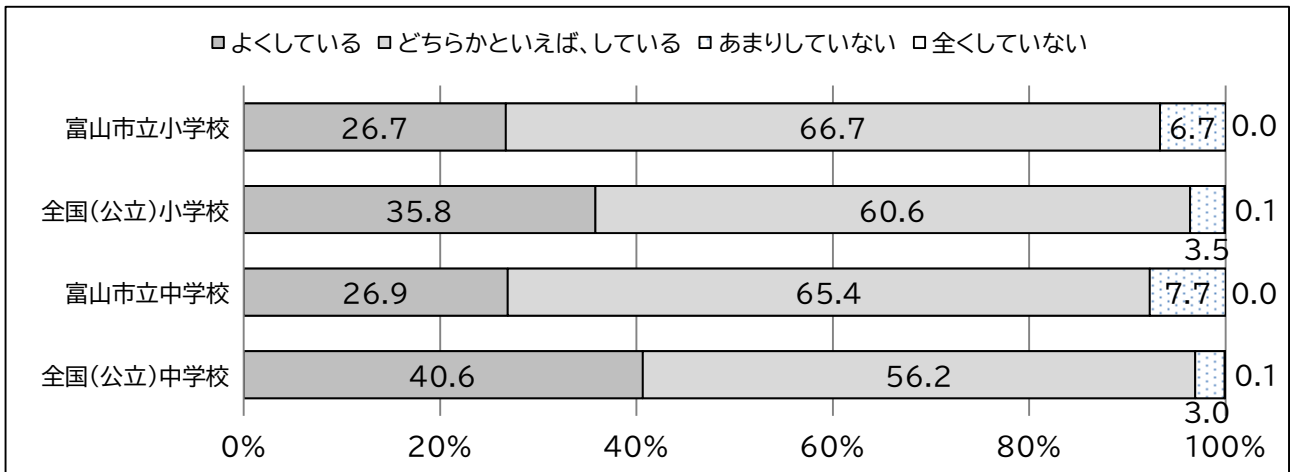
※ 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」学校の割合は、小学校・中学校とも、全国よりかなり低い。

- 6 学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っている。



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、小学校・中学校ともに、全国より低い。

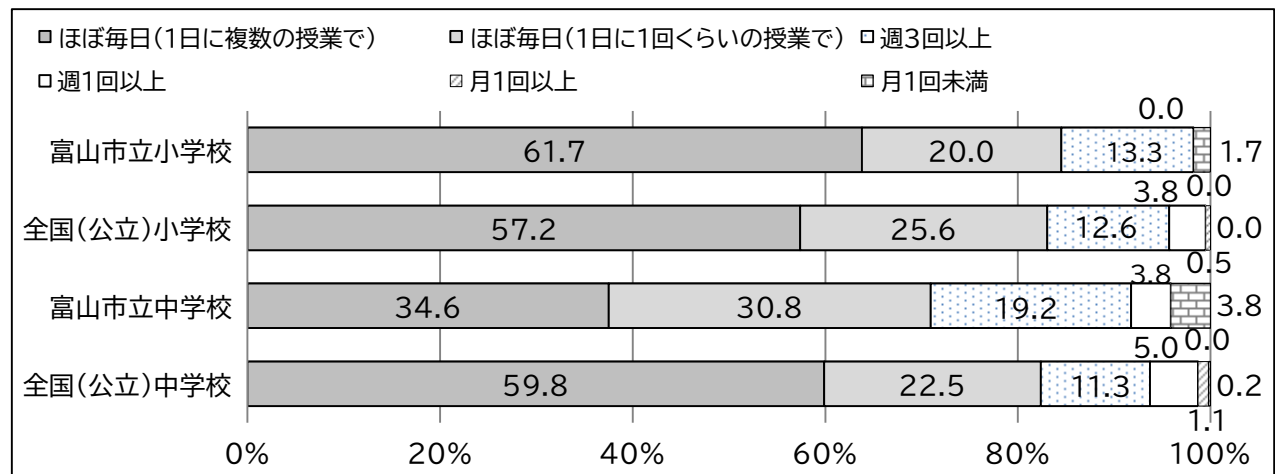
- 7 特別の教科 道徳において、取り上げる題材を児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている。



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、小・中学校ともに、全国よりやや低い。

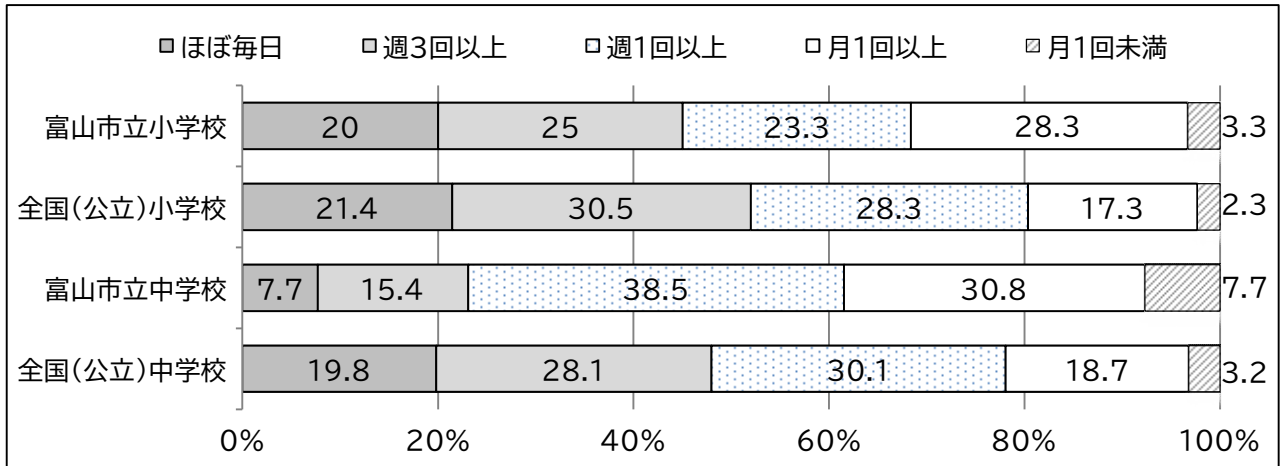
【ICTを活用した学習状況】

- 8 一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用したか。



※ 「ほぼ毎日」「週3回以上」活用した学校の割合は、小学校は全国とほぼ同じであり、中学校は全国より低い。

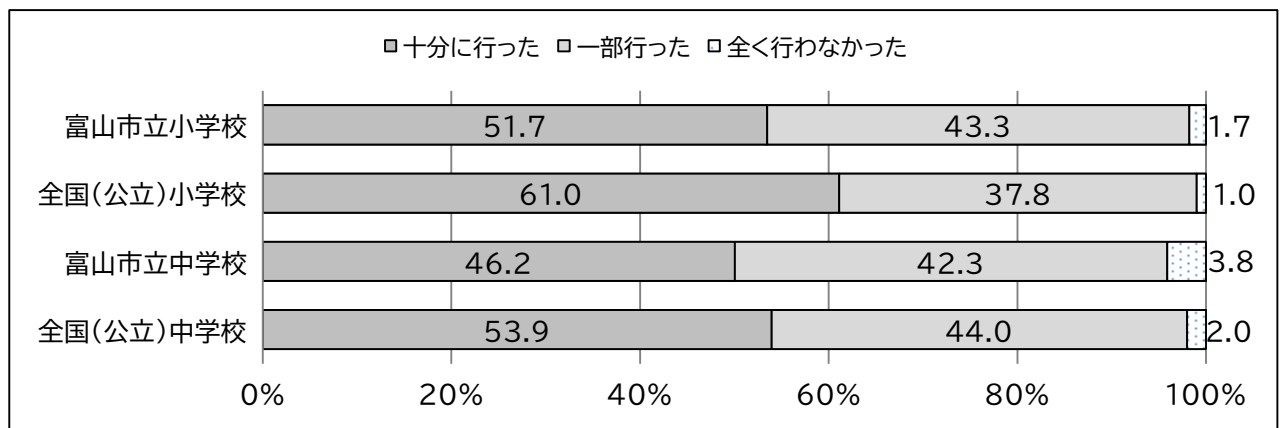
9 児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させたか。



※ 「ほぼ毎日」「週3回以上」使用した学校の割合は、小・中学校ともに、全国よりかなり低い。

【特別支援教育】

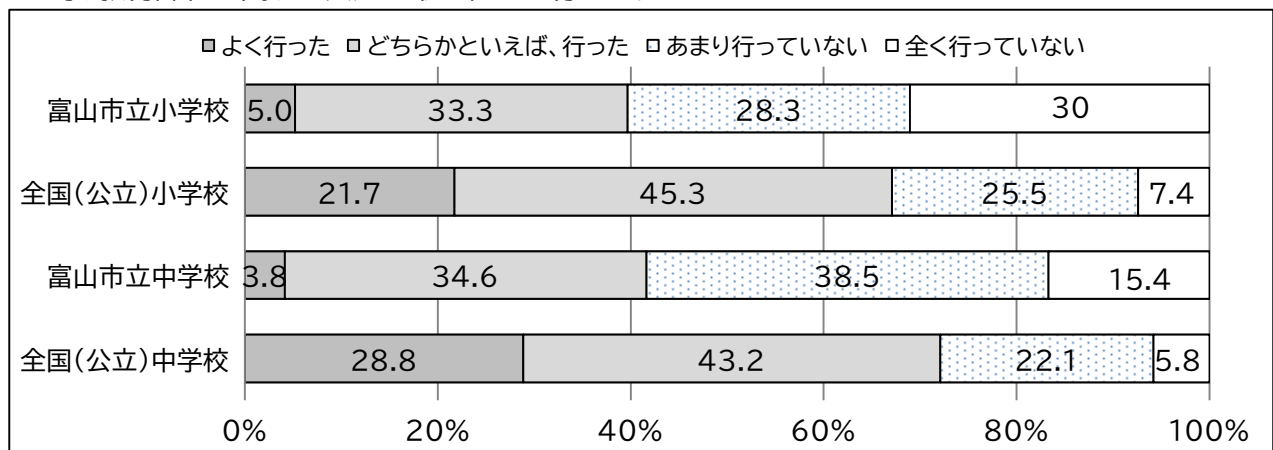
10 ◎ 前年度までに、発達障害を含む障害のある児童生徒も含めた、多様な児童生徒が通常の学級に在籍していることを前提に、学級全体での指導の工夫を行った。



※ 「十分に行った」「一部行った」学校の割合は、小学校は全国よりやや低く、中学校は全国より低い。

【小学校教育と中学校教育の連携】

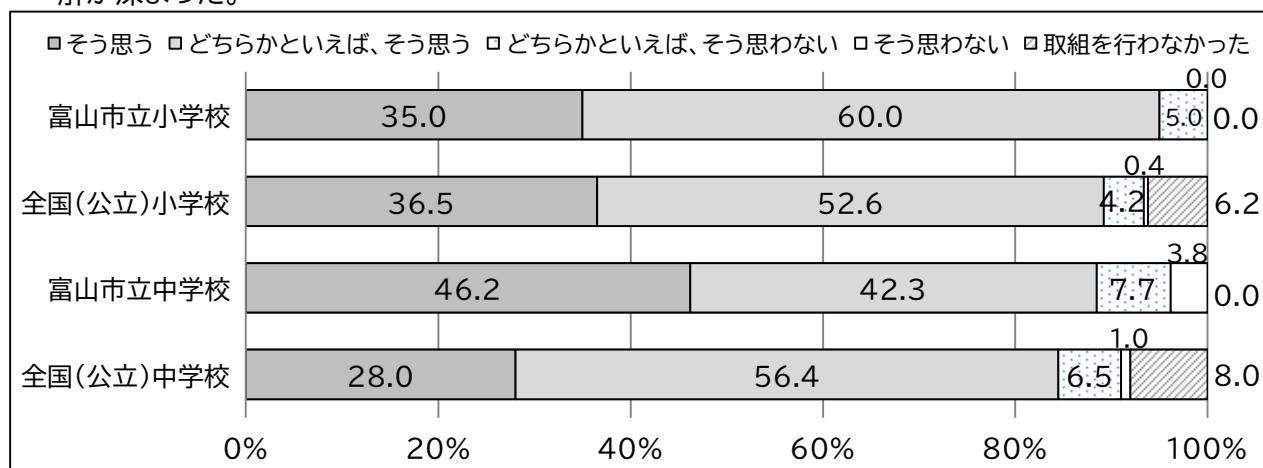
11 前年度までに、近隣等の小(中)学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取り組みを行った。



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、小・中学校ともに、全国よりかなり低い。

【家庭や地域との連携等】

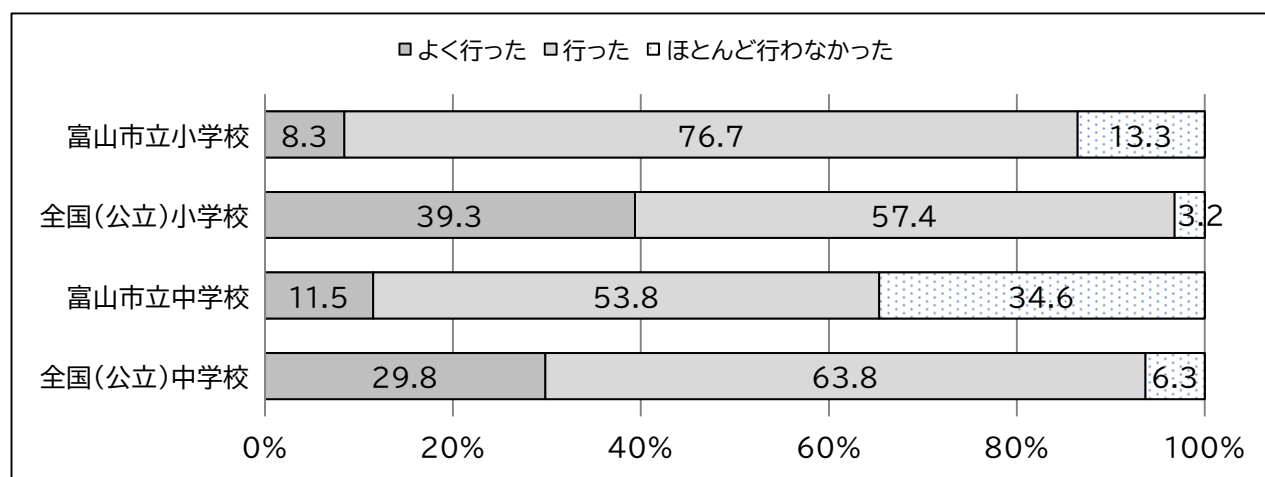
12 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取り組みによって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった。



※ 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」学校の割合は、小学校は全国より高く、中学校は全国よりやや高い。

【調査結果の活用】

13 令和7年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した。



※ 「よく行った」「行った」学校の割合は、小・中学校ともに、全国よりかなり低い。

